

子ども達への水辺の安全教育プログラムの推進

【2023年度の事業目的】

国民に対し**水辺の接点を創出し、安全への知識と技能を学び合える環境を整え、水辺に関わる全ての人**が支え合うことで、**事故ゼロの社会**を目指す。

< 中長期 >

日本の溺水事故を減らすために、民間団体や教育機関、公的機関等、横断的な連携を図る必要がある。また、29都道府県ライフセービング協会、全国165クラブによる教育実践は必要不可欠である。よって指導員の育成とともに、e-Lifesavingの活用、国民に向けたサポーター講習を通じて、自助・共助・公助の知識と技能を高めていくことを目標とする。その上で各学齢における指導内容等をまとめていく。

「水辺の接点創出」と「安全への知識と技能を学び合える環境創出」の観点から、以下を事業目標とした。

1. ジュニア・ライフセービング活動の充実

- (1) 夏のジュニア・ライフセービング（以下Jr.LS）活動への支援に軸を置き、年間を通して海辺での活動機会を得られる多様なプログラムの提案、実践共有、器材支援を図る
- (2) 50%のクラブがJr.LS活動を実施している状況を目指す（2017年度実態調査時＝36.8%）
- (3) 指導員間の連携、共有を図り、各クラブが抱えている課題への解決策等、具体的に話し合う場として、年に4回「Jr.LSクラブハウス」（オンライン）の開催を目指す

2. 指導員養成・ライフセービングサポーター講習会の実施

- (1) 全国29か所での水辺指導者や教員に対する研修会及び指導員養成講習会を展開し、80名の指導者を誕生させる
- (2) サポーター講習では年間12,000人の受講者数を目標とする

3. ICT教育プログラムの改修・拡充と活用・周知

- (1) e-Lifesavingのコンテンツ拡充や改修（学齢ごとの学びの分類）に努める
- (2) 「みんなで学ぼう！」では「湖でのできごと」とし、警察庁、滋賀県警と共同制作を行う
- (3) 溺水事故が多く発生する「海」「川」「湖」でのリアリティある動画が存在することで、地域の特性に合った学びの幅を可能とする
- (4) 学校教育への積極的な広報連携を図り、ユーザー数10万人、200万PVを目指す
- (5) VR映像「ライフセーバー（仮称）」を開発し、実践研究を行う

1, Jr.LS活動の充実 ※事業目標 1 に関連

- (1) 時期：2023年4月～2024年3月
- (2) 場所：全国海水浴場等
- (3) 対象：小・中学生 200名/都道府県LS協会、各加盟クラブの指導者
- (4) 内容：a.海での体験活動 b.器材支援 c.指導者研修の実施

2, 指導員養成の開催・実施 ※事業目標 2 に関連

- (1) 時期：2023年4月～2024年3月
- (2) 場所：全国（東北・関東・関西・九州）
- (3) 対象：80名（認定ライフセーバー）
- (4) 内容：指導員養成 a.学科・実技試験 b.面接試験

3, ライフセービングサポーター講習会の開催・実施 ※事業目標 2 に関連

- (1) 時期：2023年4月～2024年3月
- (2) 場所：教育機関施設（体育館・プール）、民間プール、海浜等
- (3) 対象：12,000名（小中高校生・社会人）
- (4) 内容：a.心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置法（CPR、AED）
b.ライフセービングの基礎知識と技能

4, ICT教育プログラムの改修・拡充と活用・周知 ※事業目標 3, 4 に関連

- (1) 時期：2023年4月～2024年3月
- (2) 場所：全国の学校教育施設、地域・教育機関施設
- (3) 対象：小中学生及び教員、指導者等
- (4) 内容：e-Lifesavingのコンテンツ拡充（新規VR事業含む）と授業展開



海での体験活動『ライフセーバーと海で遊ぼう!』より@千葉県



e-Lifesavingを活用した授業実践より@静岡県

1, Jr.LS活動の充実

※事業目標 1 に関連



1-1 実践例の紹介(新規企画)

- ①企画名：『ライフセーバーと海で遊ぼう！』
- ②日時：2023年12月25日～27日
- ③場所：千葉県館山市 大賀海岸 ※宿泊場所 KAKERU UMI CLUB
- ④参加者：小学校3～4年生 26名 / 指導補助：高校生9名
- ⑤ねらい：①冬の海での様々なアクティビティを通じて、夏に限定されない「海」の素晴らしさを体感してもらう
②事故予防と適切な対処行動の観点から、心肺蘇生法やウォーターセーフティの知識や技能を身に付けてもらう
- ⑥内容：

	1日目	2日目	3日目
午前	新宿駅西口9時集合 バスで移動 開校式 ガイダンス	1班：ビーチスポーツ 2班：シーカヤック 3班：SUP	シーカヤック・SUP・磯遊び・ 写真撮影 片付け
午後	1班：シーカヤック 2班：SUP 3班：ビーチスポーツ	1班：SUP 2班：ビーチスポーツ 3班：シーカヤック	閉校式 修了証授与
夜	心肺蘇生法	心肺蘇生法	

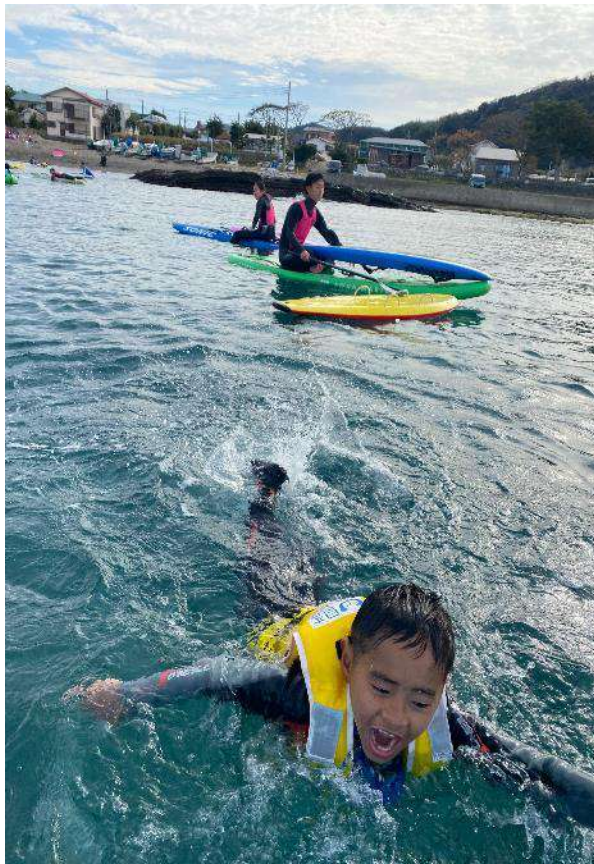


12月23日（土）@成城学園

“自分の命は自分で守る”ことを基本としたウォーターセーフティを学んでもらった。

海という自然に向かう前の大切な学びの時間となった。今後も「自助」あつての体験活動であることをプログラムの一環として位置付けたい。

- 指導：島田インストラクター
- 指導補助：高校生のリーダー資格を有したライフセーバー9名
- 内容：正しいライフジャケットの着方、落水体験・ライフセービングバックストローク等



海での活動は冬でも楽しめる内容にするため、あまり水につからないカヤックとSUPを選択した。また、ウェットスーツは人数分用意し、テントサウナも用意して防寒対策を行った。初日こそ強風に見舞われたが、全日程通して気温も高く、天候にも恵まれたので、子どもたちが海での活動を楽しむ様子を見ることができた。

1-1 ③ 『ライフセーバーと海で遊ぼう！』 ～いのちに向き合う授業の様子～



初日の夜は心肺蘇生法の体験を行った。一次救命処置の重要性をしっかりと理解した後に、3人一組に分かれて、高校生によるサポートのもと、主体的に取り組んでくれた。万が一、身近な人が倒れた時に、自分たちに何ができるのか？を具体的に考え、その時に“行動できる人”になることへの想いを抱いてくれた。

1-1④ 『ライフセーバーと海で遊ぼう！』 ～宿舎での様子～



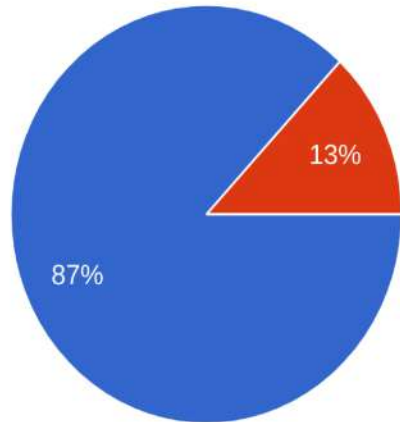
宿舎では自由な時間を多くとる「ゆとり」をあえて設けた。その時間に生まれる高校生との交流や、仲間と語り合いながら貝を磨く時間は大変有意義であった。親元を離れて、多くの人との関わり合いの中で過ごす一つ一つ時間も、「海」が与えてくれたかけがえのない時間であったように感じる。

1-1 ⑤

『ライフセーバーと海で遊ぼう！』 ～事後アンケートの結果と総括～

Q.事前ガイダンスでライフジャケットの正しい着用の仕方は理解できましたか？

23 件の回答

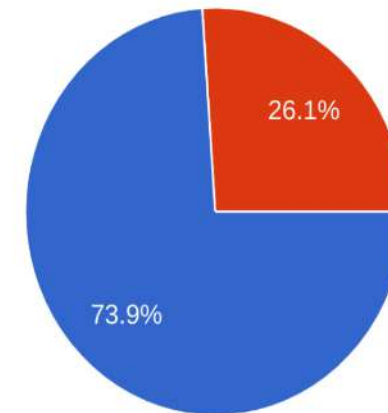


- よく理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった



Q.心肺蘇生体験で、胸骨圧迫のやり方は理解できましたか？

23 件の回答



- よく理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった

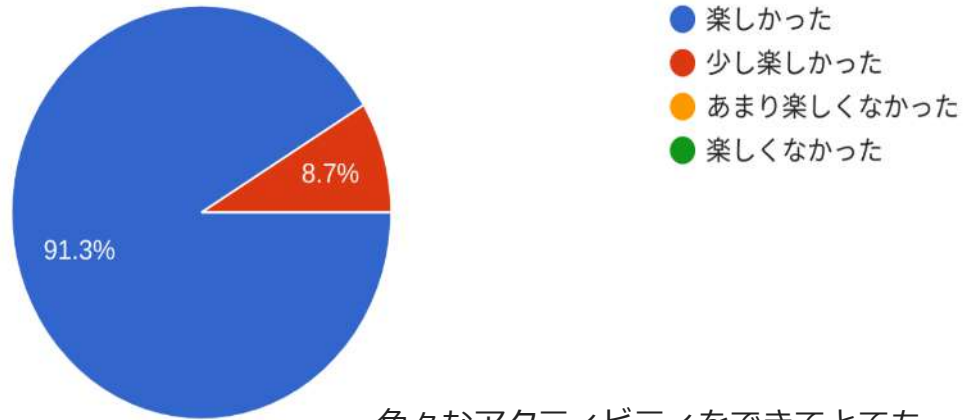


1-1 ⑥

『ライフセーバーと海で遊ぼう！』 ～事後アンケートの結果と総括～

Q.高校生ライフセーバーと楽しく活動できましたか？

23件の回答



色々なアクティビティをできてとてもたのしかったです。

今までできなかったことができて楽しかった。高校生とたくさん遊べてよかった。

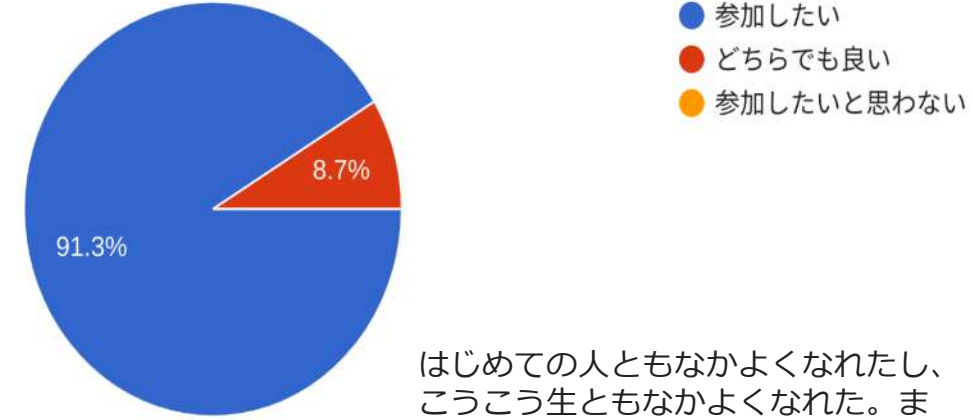
今回ははじめてできんちょうしたけど、へやも高校生もやさしかったからもう一度参加したいしあたらしいけいけんもしたいです。

いろいろな人とこうりゅうできてたのしかった。友だちもつくれた！！



Q.この企画にもう一度参加したいですか？

23件の回答



はじめての人ともなかよくなれたし、こうこう生ともなかよくなれた。また参加したい。

はじめてやったカヤックでもやり方がよくわかった。しんぞうマッサージもどういふうにやればいいのかよく学べた。

海がとてもきれいでたくさんあそべたし、人がたおれたときにどうしたらやくにたてるかがわかった。ライフセーバーとしてとてもたのしかった。もう一度この「ライフセーバーと遊ぼう！」にさんかしたい！



『ライフセーバーと海で遊ぼう！』 ～事後アンケートの結果と総括～

○保護者アンケートより

水泳を少ししか習っていなかったため、参加することに不安があったようです。「また行きたい!」「ツアーの企画があったら申込で!」と言われたことから、充実した合宿を過ごせたようです。ありがとうございました。

2泊3日、全て楽しく過ごせたと聞いています。ありがとうございました!

アンケートにはまた来年も参加したいことを書いたそうです。楽しすぎてもっと長く行って良かったとのこと。日頃接点のない私学の小学生と触れ合うことができたり貴重な体験をさせていただきました。

高校生はじめスタッフの皆様に暖かく接していただきありがとうございました。ライフセービングをきっかけに素晴らしい経験をさせていただくことができ、JLAの活動に感謝いたします。ありがとうございました。また来年も…5年生になってしまいますがチャンスがあれば参加したいそうです。

子供が本当に楽しかった、ということと、ライフセービングという競技にとっても興味を持って帰ってきました。クラブに入りたいとすら言っているので、春や夏の合宿や、単発講習会などがあれば、是非参加させて頂きたいです。



『ライフセーバーと海で遊ぼう！』 ～事後アンケートの結果と総括～

○総括

はじめに、今回の企画は国民の皆様には1年を通じて海に足を運ぶ機会をつくることを目的に繁忙期の夏ではなく、冬の12月を実施時期とした。実施場所は千葉県館山市大賀海岸にて実施。内容はシーカヤック・スタンドアップパドル・ビーチスポーツの3つのアクティビティを体験する企画となった。また、夜の時間には心肺蘇生の重要性を知る体験をして命の大切さを知ったことでこの企画の質を高めたと感じている。そして、参加条件に事前ガイダンスの「Water safety」プログラムへの参加を必須とした。これにより、水辺の活動におけるライフジャケット着用の重要性を学んだことで、それらを理解した児童が今回の企画に参加している。加えて、事前プログラムは保護者引率の元で参加しているため「Water safety」プログラムを実施している子供たちの様子を保護者も見学している。

スタッフの構成は、ジュニア指導者資格「リーダー」を取得した高校生ライフセーバーと、指導者資格を有するライフセーバーでシーカヤック・スタンドアップパドル・ビーチスポーツの指導を実施した。これにより、この企画はライフセーバーが支える企画となり、参加児童がライフセーバーたちと共に過ごす特別な企画になったと感じている。また、将来の日本のライフセービングを支える人材育成として、高校生ライフセーバーを指導スタッフに加えたことが、この企画の大切な考え方の1つであった。高校生の年代から伝える立場、支える立場を経験し、取得した資格の有効性や自分の存在意義を高めることで、将来の日本の社会を支えるライフセーバーに成長することに繋がれば幸いである。

最後に、今回の企画に参加した児童や高校生たちが、今回の経験をきっかけにして、年間を通じて海に足を運び、自然と触れ合う生活を送り、自然環境を守れる大人になって欲しいと強く願う。

教育本部 学校教育推進委員会 島田貴史



『ライフセーバーと海で遊ぼう！』 ～メディア広報～



日テレ 再生回数1475回 (4月9日時点)

https://www.youtube.com/watch?v=tkP_sNskSz



JLA 再生回数 261回 (4月9日時点)

<https://youtube.com/watch?v=sEO-cg0GIEI&feature=shared>

1-2 ①, ジュニア教室及び器材支援事業

□ e-Lifesaving、JLAジュニアライフセービングバッジテストを活用した、「ジュニアライフセービング教室の実施」
 ⇨ 「0を1に」を目標に、初めてプログラムを実施するか、新しい取り組みをする団体に器材等の支援を行った。

- 公募による加盟団体への支援
 - ↓ 事業の意図と照らし合わせた公募
 - ↓ 審査委員会を召集、10団体の企画提案書を採用
 - ↓ 企画団体へオンラインと実地による支援及び現地調査
 - ★ 報告書作成と精算

公募時期、審査時期を今後も早める必要がある⇨より広い地域、多くの応募を獲得できる。プログラムを実施できる期間が広がる。

□ 採択10団体（五十音順）

<新規支援 5団体>

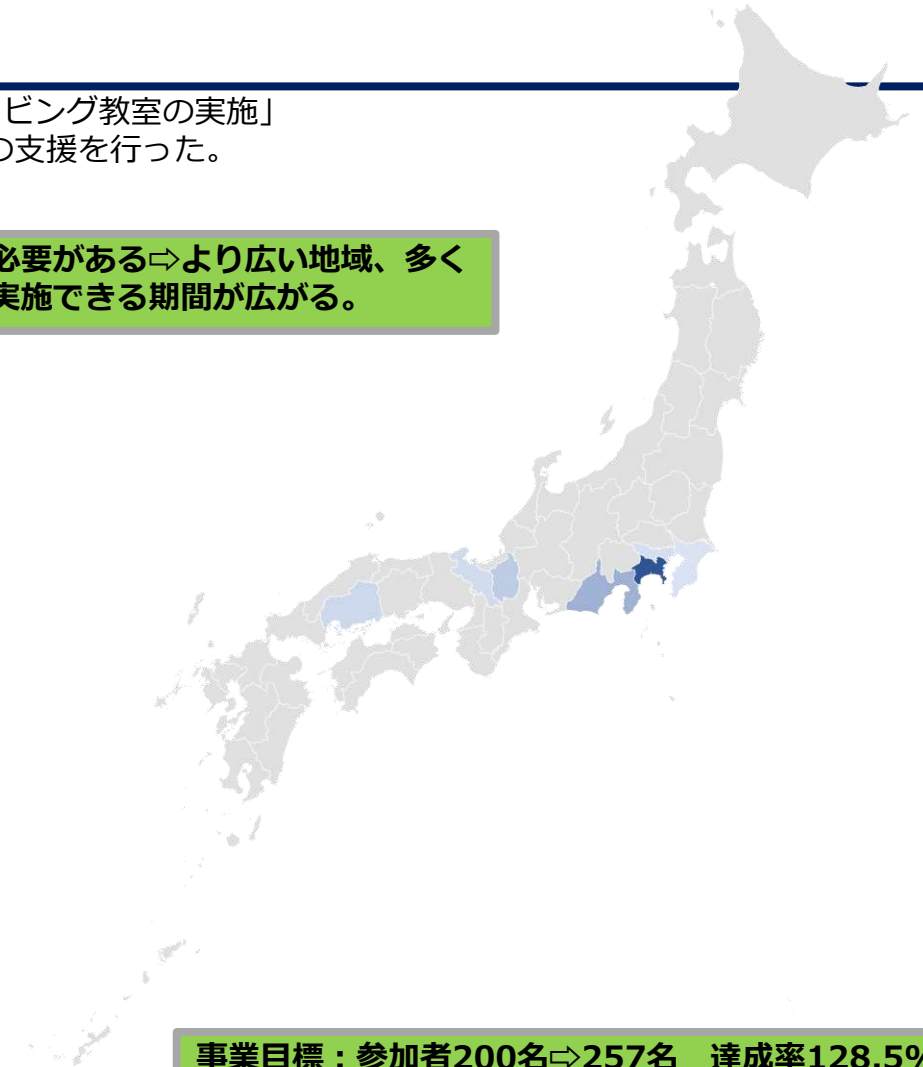
・近江舞子ライフセービングクラブ	31名
・お台場ライフセービングクラブ	20名
・逗子ライフセービングクラブ	14名
・福山サーフライフセービングクラブ	24名
・南伊豆ライフセービングクラブ	45名
	計134名

冬にも海で体験できる環境づくりのためウェットスーツを支援。ライフセーバーが指導しやすいオフシーズンの取り組みを中心に新しい取り組みを公募した。通年型という性質を考え、複数回の実施とした。

<通年型支援 5団体>

・天橋立ライフセービングクラブ	15名+7名
・勝浦ライフセービングクラブ	8名+10名
・湘南ひらつかライフセービングクラブ	10名+12名
・茅ヶ崎ライフセービングクラブ	6名+6名+6名
・横浜海の公園ライフセービングクラブ	13名+9名+8名+13名
	計123名
	総計257名

事業目標：参加者200名⇨257名 達成率128.5%



1-2 ②, ジュニア教室及び器材支援事業

2023年度ジュニアライフセービング教室助成事業企画提案書

記載にあたっては、本助成事業の意図に沿って、具体的な企画提案をすること。
 クラブや、クラブ員、地域にとっての課題とそれらを解決するにあたり作成したプログラムの意図や
 今後の中長期ビジョンについて、プログラムの内容と管理運営、当日の実際の指導案について記載すること。
 1、2共に以下の枠に収まらない場合、別紙を添付しても構わない。

近江舞子企画提案書-指導案

JLAの開発教材の活用、資格研修との連携も評価項目に盛り込み、活用を促した

1, 本助成事業によるジュニア教室の実施に向けた計画と、事業実施によりどのような成果を狙うのか。

評価項目	1-1) 指導員の確保について（募集や事前研修などの計画、指導者が資格未取得の場合のリーダー講習会実施など）
各5点満点	1-2) 参加者や地域の課題を考慮し、対応する狙いやプログラムが掲げられているか
最大30点	1-3) 総合評価

滋賀県では現在ライフセービング教室の開催は実施されたことがありません。折角日本で一番大きな湖がありながら、そのような場がなかったことはとても残念に思います。また、琵琶湖では毎年5～10人程度以上は水難事故で命を亡くしており、安全啓発に対する現実的な課題も抱えています。

そのような問題がある中でジュニア教室を開催することは、児童・生徒にとっての可能性を開くとともに、水辺での楽しさや安全について伝える格好の場になると思います。また、ウオーターセーフティを身に付けることにより、監視員のいない海や川などに行った際にも、身を守る可能性を高めると同時に、保護者の方とともに学びを広げることにより、大人の事故防止にもつながります。

住居地域内の水泳場で開催することで、地元の広報紙やマスコミに取り上げられ、関心を広げたいと思います。また、水泳場を抱えている自治会での呼びかけ、水泳場のある宿泊施設内でのポスター掲示、スポーツクラブやスイミングスクール、学校への案内や掲示を行うことで参加者を募ります。

夏場の屋外での開催の他、今後は、秋・冬・春にも定期的に室内での開催をすることで、以後の学習に継続していければと思います。水泳の苦手な子どもたちへの普及は安全対策となり、他方、スイミングスクール等での開催はジュニアスイマーから未来のライフセーバーの育成につながればという期待にもつながります。

指導員については、私自身がジュニアのアシスタントインストラクターを取得しています。また、私は日本水泳連盟の上級水泳指導員の資格も有していますので、最低限の人員は確保できますが、普段のライフセービングのつながりのあるメンバーやプールコーチなどでも可能な方には参加いただき、できるだけ内容の充実したプログラムが組めるよう実施したいと考えます。

1-2③, ジュニア教室及び器材支援事業

各団体実施の様子

天橋立実施報告書一部

実際に行ったタイムテーブル	活動内容	楽しさ	関わりあい	の大切さ	クラブの創意
10	自己紹介、ビーチクリーン みんなの名前を憶えて、仲間意識を高める チームごとに分かれてビーチクリーン競争をし、チームで協力する	○	○		○
20	ハザードマップ、海の危険について 自作のパネルを利用して、海の危険を知り、災害時の避難方法を学ぶ 避難場所の確認と津波フラッグを実際に見せて覚えてもらう			○	
30	ライフジャケットの使い方と実践 ライフジャケットを自分で着る、友達同士で着させてあげるなど、協調性を養う ライフジャケットを着用したまま、避難場所へ移動し、必要性と重要性を学ぶ	○	○	○	○
40	準備運動 鬼ごっこや反射系の運動を取り入れて、体を温める。仲間との触れ合いに繋げる	○	○		○
50	休憩（ウェットスーツを着用する）				
60	ウェットスーツとライフジャケットを着用しての体験 ウェットスーツを着用することのメリット・デメリットを伝え実際に海に入ってみる ライフジャケットを着用し、浮いて待つや、保温されることを体験する	○	○	○	○
70	ライフセービングスポーツに触れる ランスイムラン・ニッパーボードの体験 波乗りチャレンジ	○	○		○
80	まとめ チームごとに体験のまとめを行い、発表する 今日体験できたアトへの感謝を感じる	○	○		○



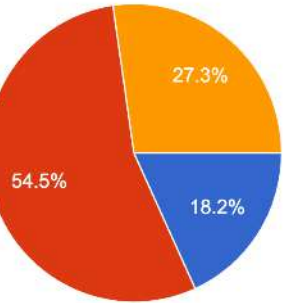
1-2④, ジュニア教室及び器材支援事業【子どもアンケート結果より】

<共通アンケート>

Q,ライフジャケットの正しい着用方法と効果を知っていましたか。

新規支援

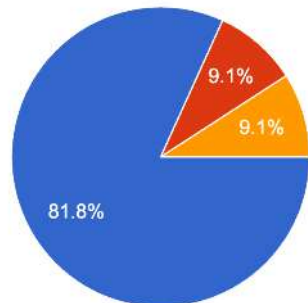
<参加前>



- よく知っていた
- 少し知っていた
- 知らなかった



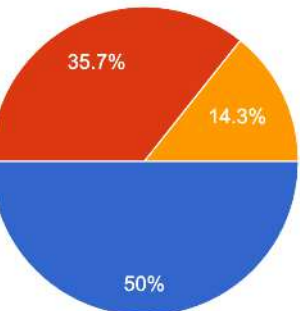
<参加後>



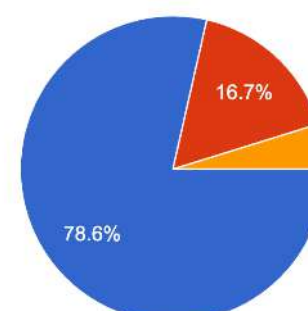
「よく知れた」について
新規支援は+63.6%
通年型は+28.6%
体験活動を通して、学びが深まる

通年型

<参加前>



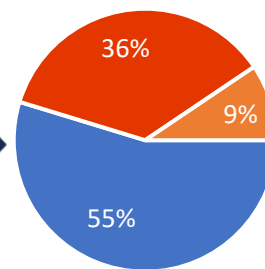
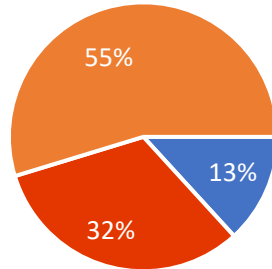
<参加後>



<共通アンケート>

Q,活動する場所で地震や津波が発生した際の避難経路や避難場所を知っていましたか

- よく知っていた
- 少し知っていた
- 知らなかった



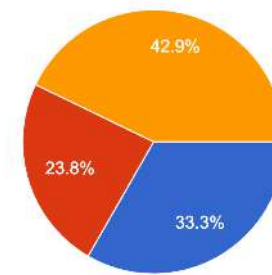
<防災教育>

プログラムを通して、体験しながら防災について学ぶことで、知識を高まった

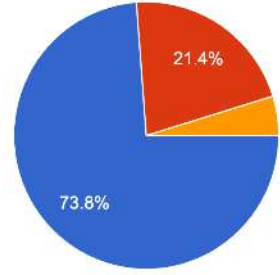
<通年型アンケート>

Q,ウエットスーツの正しい着用方法と効果を知っていましたか。

<参加前>



<参加後>

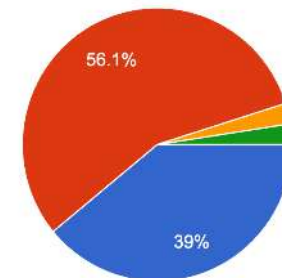


- よく知っていた
- 少し知っていた
- 知らなかった

<ウエットスーツの有効性>
ウエットスーツを実際に着用することにより、利点を伝えることができた

Q,夏以外でも海にはいりたいですか。

<参加後>



<ウエットスーツの有効性>
ウエットスーツを活用することにより、夏以外の季節に海での活動が可能となる

- 入りたい
- ウエットスーツがあれば入りたい
- 入りたくない
- 分からない

1-3 ①, JLAジュニアライフセービングクラブハウス

★年間目標参加者数120名⇒第4回22名、第5回26名、第6回16名、合計64名参加⇒第7回を対面型+オンラインにて開催する計画をしたが、次年度事業に繋げる、委員による意見交換をメインにしたため、対面会議としての実施となった。オンライン開催のおおよその参加者数が見えてきた。年間の目標としては1回毎の参加者目標よりも、オープンチャットへの誘引など年間を通じたコネクションを作ることに繋がりたい。

- 「指導者-指導者」「指導者-JLA」「指導者-society」顔が見える関係、地域や得意分野でフォローし合える→リレーションシップの強化
- 「遠く離れた環境や、タイプの違う活動からも学び合える」⇒画一的な活動に偏ることなく、広く豊かな手法に目を向け、海を楽しみ、海から学ぶ、子どもたちを中心とした豊富な指導実績を共有の財産とする。

□ 2023年度 第4回 【ジュニアプログラム事例発表】

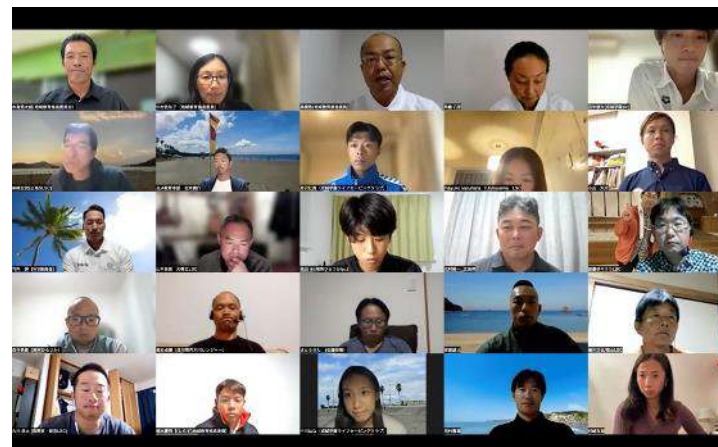
- ・日時：2023年6月21日水曜日 18:30~20:30 講義形式 @zoom
- ・講義①「2022年度現地調査」地域教育推進委員会 石原委員
- ・講義②「e-Lifesaving活用事例」学校教育推進委員会 安達委員

□ 2023年度 第5回 【グランドデザイン2061の実現に向けて私たちにできること】

- ・日時：2023年10月29日日曜日 19:00~21:00 トークセッション @zoom
- ・トークセッション①グランドデザイン×教育本部
- ・トークセッション② JLA各専門委員会発表（教育（アカデミー、教育本部）」「スポーツ」「学生」「防災」）

□ 2023年度 第6回 【指導者交流会】

- ・日時：2023年2月26日日曜日 10:00~11:30 交流会 @zoom
- ・グループ別交流会



令和4年度に実施した ジュニアプログラムの紹介



【第1回】 2022年9月18日(日)競技会を体験しよう！

場所：丹後由良海水浴場

同日に全日本ライフセービング予選会が開催されていたので、ライフセービング競技を見学してもらいました。その後、海の安全についてレクチャーをし、実際に競技種目でもあるビーチフラッグとボードレースを体験してもらいました。



【第2回】 2022年12月25日(日) 心肺蘇生法とAEDについて

場所：宮津市内のレンタルスペース

なかなか触ることがないレザシアンやAEDトレーナーで実際に練習できました。子どもから大人の方まで すべてその場に居合わせた人が実践できるようになって欲しいという願いも込めて開催しました。



【第3回】 2023年1月14日(土) 防災について考えよう

場所：宮津市内のレンタルスペース

この回は講師（防災士）を招いて、開催しました。防災食であるアルファ化米を使用した五平餅を作ったり、宮津市内で活動する防災キッズの参加もあり、とても充実した会になりました。



【第4回】 2023年3月11日(土) 環境について考えよう

場所：丹後由良海水浴場・宮津市内のレンタルスペース

私たちのホームビーチである丹後由良海水浴場は冬になるとたくさんのゴミが海岸に打ち上がります。そのゴミについてみんなで話し、そのあと海浜で拾った貝殻でキーホルダーを作りました。



◆広報◆

SNSを活用した呼びかけ・宮津市内の全小学校へ配布



SNSに投稿して
呼びかけ

宮津市内の小学校へ
チラシを配布

SNSに投稿して
呼びかけ

SNSに投稿して
呼びかけ

「ジュニアでつながる！～地域に根ざしたライフセービングをめざして～」

クラブのからい 達成度	本会の安全教育を通して、本会の楽しさを知らると共に、自然、人との関わり、海の大 切さを学ぶ。		
	十分達成した	達成した	達成していない
全所属員・教員	海軍フラッグ、ライフジャケット、レスキューチューブ、バグ、ビーチコングラス類の一式		
	達成した	達成した	達成していない
30	【オリエンテーション】		
	○オリエンテーション、活動内容の理解 ○本会本部	○	○
30	【防犯教育/離岸道について】		
	○離岸道が危ない、どんな危険、どこに逃げるとの危険性を教える。 ○海軍フラッグについて教える。 ○離岸道について知る（てきがいし編、海軍フラッグの役割）	○	○
30	【体験】		
40	【水慣れ】		
	○水慣れ、ウェーディング、ドルフィンスルー、深く、 水プーサーフィン体験する。 ○深くことが自分の身を守ることに繋がると認識する	○	○

地域のサーフィン体験前に
Watersafety教育を実施



分 30

実施内容
e-Lifesavingを使用しての座学

集合時間を利用して、みんなで考えよう！「海のできごと」を流して視聴、挨拶、今日の流れ、目的 ⇒ この「命を守るための水泳授業」で何を学ぶのか確認

①クイズ 初級編1問目
②資料集『Project of JLA』
③事前学習 海編、川編

④動画で学ぼう！
『浮く①、④』『ライフジャケットの有無』トーク、リーチ、スロー』『ライフセービングバックストローク』
③事前学習 プール編

日本での水辺の事故についてライフセーバーって？
海の注意すべきところは？ 海編→風、離岸流など
川編→河川財団が協力して作成、是非、自宅で、実技で行う内容を確認。

『浮く①、④』『ライフジャケットの有無』トーク、リーチ、スロー』『ライフセービングバックストローク』シャワーを浴びる、準備体操をする。



実施内容
【ライフジャケット体験】

- 正しい装着の仕方(子どもにも考えさせながら)
- ライフジャケットの利点
- 浮く ヘルプポジション(ワドルポジション)
- 移動する (バタ足、ライフセービングバックストローク)
- コンパクトジャンプ
- アクシデンタルフォールイン

実施内容
【着衣泳体験】

- 泳いでみよう(着衣との違いを知る)
- 浮いてみよう
- 道具を使って浮いてみよう。ビート板、ペットボトル
- スローに挑戦 (ペットボトルに水なし、水あり) 助ける、助けられる両方体験。

e-Lifesavingとウォーターセーフティの体験活動（スイミングクラブでの実践）

特別支援学校の授業でもライフセービング

ビーチクリーン体験
海には簡単に行けないけれども、砂に触れながら、ごみを拾おう！

ビーチフラッグス体験
重いでも取れるようにホースも取り下げる工夫を。

レスキュー体験
ビニール袋を溶かすだけでも人は救える！

スポーツ

考えよう2
みよへ じこ 水辺の事故について かんが 考えてみよう！

救命

環境

痛社

ライフセービングスポーツ

ゴールの先に、救う命がある。

ライフセーバーは日々、命を救うためのトレーニングに励みます。その体力や技術を磨き合うのがライフセービングスポーツです。

特別支援学校での様々な実践

掲示物での発信。QRコードを効果的に活用して学びを深める。

1-3 ⑤ JLAジュニアライフセービングクラブハウス

第1回からの改善状況

8、次年度事業案

「地域クラブ全てにおいてジュニアライフセービング活動を」力強く後押しします！！

定期開催事業化(2022年度は春・秋に開催予定です)

- ジュニア教育指導者プラットフォームを形成するための、基礎的な情報交換空間の構築を目指します。各JLA委員会と連携することで、学生など幅広い参加を促し、ここで得られた様々な実践知をJLA資格に還元します。

スタートアップ支援

- ライフセービング教育の実態調査報告書により、関心が高かったクラブや、現在未実施のクラブへの積極的な広報を行い、クラブハウスへの参加を促します。事業立ち上げ時の問題を解決できる、グループテーマを設定します。

ジュニア指導者コミュニティの活性化

- 実際にジュニアプログラムを運営する中で関心の高いテーマについて、テーマを絞った意見交換や、先行事例の紹介などを実施します。

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE

【振り返り】

・定期開催事業化（実施回数増）⇒△ 全3回実施できたが年度当初計画より1回マイナス。年度末の対面会議実施や、各事業との業務バランスから中止した。

ねらい「仲間を意識できる企画づくり。」

・スタートアップ支援（新規開拓、継続化）⇒○

新規開拓【近隣地域との交流や具体的な課題解決→地域別クラブハウスや詳細な課題別グループワーク】

・活性化⇒○ オープンチャット複数年運用に変更
年間を通した交流ツール=オープンチャット年間運営

【次年度改善案】

・指導者支援プラットフォームの一角としての機能拡充

【指導者接点構築】

- クラブハウス(交流、研修支援)
- ホームページ(情報発信)
- 岩井臨海学園(対面指導現場)

【共有内容】

- JLA及び教育関連最新動向
- 競技、研修、講習、指導方法
- 相談窓口、運営方法 など

2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

指導員養成講習会開催都道府県

- (1) 時期 : 2023年4月～2024年3月
- (2) 場所 : 東京、茨城、新潟、静岡、広島、大分、鹿児島、沖縄
- (3) 受講者 : 105名、内合格者88名
 - BLS指導員養成講習会 44名
 - ウォーターセーフティ指導員養成講習会 23名
 - サーフライフセービング指導員養成講習会7名
 - プールライフガーディング指導員養成講習会5名
 - IRB指導員養成講習会 3名
 - PWRC指導員養成講習会 8名
 - ジュニアライフセービング指導員養成講習会 6名
 - ☆合計 96名
- (4) 内容 :
 - a. 学科 (JLA指導員とは, 指導法)
 - b. 実技 (学科指導、実技指導、デモンストレーション)
 - c. 学科および実技試験
 - d. 面接試験



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

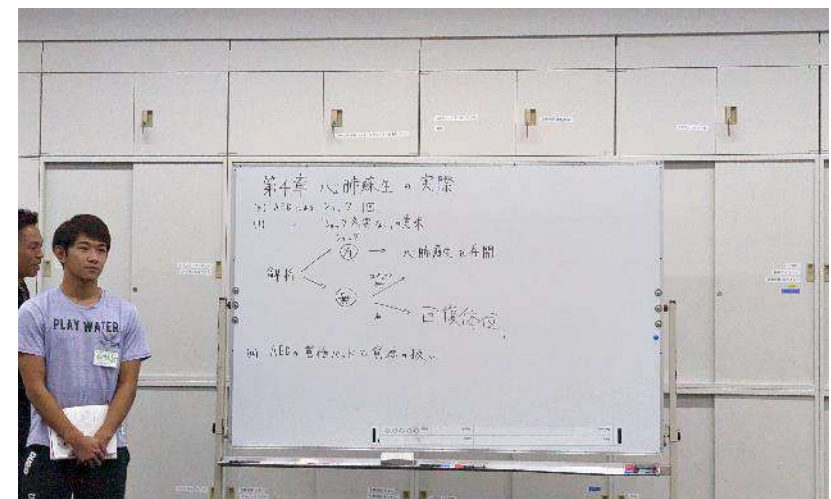
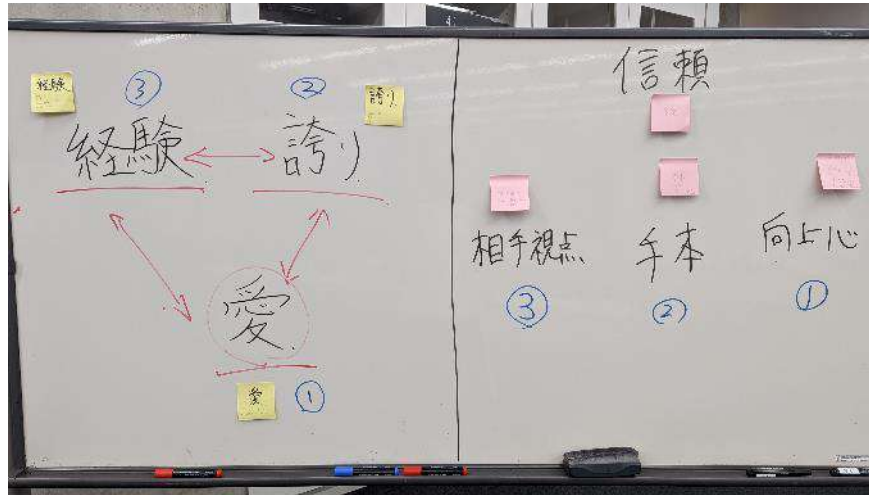
【BLS指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2023年	10月14、15、22、29日	9:00~17:00	流通経済大学（茨城県龍ヶ崎市）	6
2023年	11月18、19、25、26日	9:00~17:00	東京医薬看護専門学校（東京都江戸川区）	14
2023年	11月23、24、25、26日	9:00~17:00	北谷公園水泳プールの事務所(沖縄県中頭郡北谷町)	10
2024年	1月13、14、20、21日	9:00~17:00	浪漫館、マリンビル(静岡県静岡市)	5
2024年	2月17、18、3月2、3日	9:00~17:00	柏崎エネルギーホール他（新潟県柏崎市）	4
2024年	3月9、10、16、17日	9:30~17:30	コンパルホール（大分県大分市）	5
			合計	44

2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

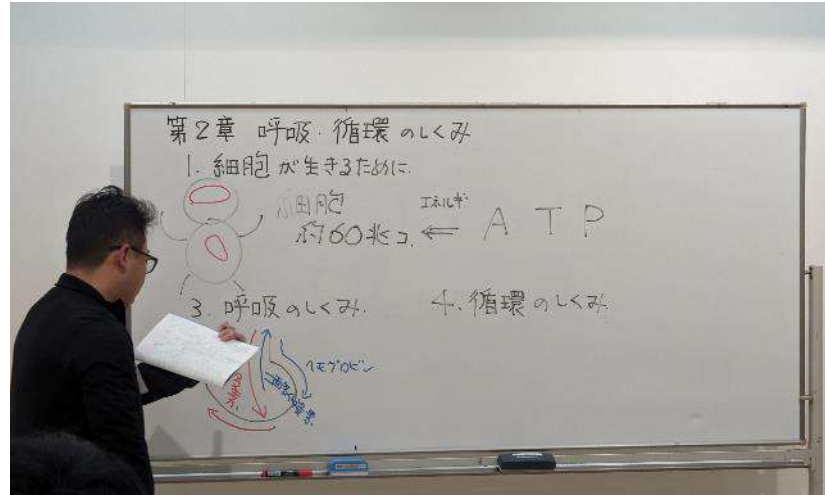
《BLS指導員養成講習会の様子》



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

《BLS指導員養成講習会の様子》



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

【ウォーターセーフティ指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2023年	12月9、10日	9:00~17:00	流通経済大学 (茨城県龍ヶ崎市)	11
2024年	2月18、19日	10:00~18:00	静岡県富士水泳場 (静岡県富士市)	3
2024年	2月3、4日	8:00~17:00	スポーツクラブビッグラン(広島県福山市)	2
2024年	3月23、24日	10:00~18:00	国分総合プール(鹿児島県霧島市)	7
			合計	23



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

【サーフライフセービング指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2023年	4月29、30、5月1日	9:00~17:00	さがらサンビーチ (静岡県牧之原市)	7
			合計	7



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

【プールライフガードینگ指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2024年	2月4、17、18日	9:00~17:00	オンライン、アクアブルー多摩（東京都多摩市）	1
2024年	3月24、25、26日	9:00~17:00	静岡県富士水泳場（静岡県富士市）	4
			合計	5



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

【IRB指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2024年	3月23、24日	9:00~17:00	さがらサンビーチ (静岡県牧之原市)	3
			合計	3



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

【PWRC指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2023年	4月7、8、9、10日	9:00~17:00	嘉手納マリーナ (沖縄県中頭郡嘉手納町)	8
			合計	8

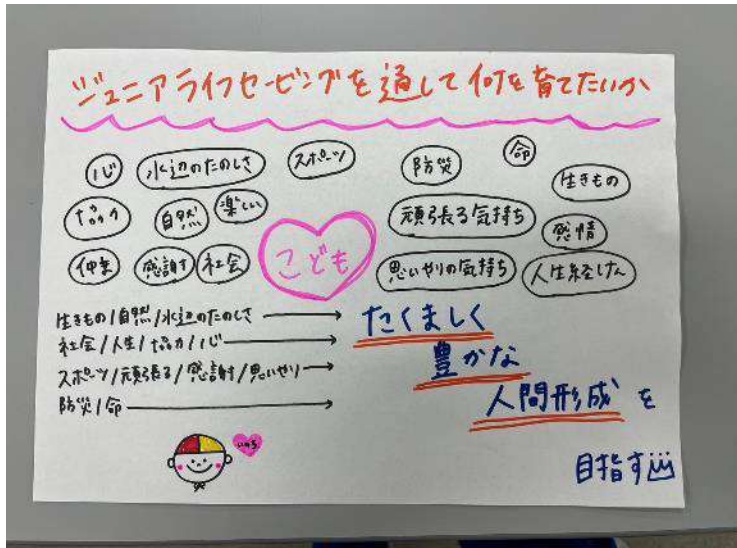


2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

【ジュニアライフセービング指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2024年	3月9、10日	9:00~17:00	柏崎市民プラザ（新潟県柏崎市）	8
			合計	8



2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

【指導員更新講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2024年	2月10日	13 : 30~16 : 30	ももち文化センター (福岡県福岡市)	13
2024年	2月21日	13 : 00~16 : 00	オンライン	40
2024年	2月21日	18 : 00~21 : 00	オンライン	38
2024年	2月24日	9 : 00~12 : 00	アクアパーク柏崎(新潟県柏崎市)	4
2024年	2月28日	13 : 30~16 : 30	うみんちゅワーフ (沖縄県中頭郡北谷町)	10
2024年	3月3日	13 : 30~16 : 30	静岡駅ビル内 パルシェ (静岡県静岡市)	11
2024年	3月6日	13 : 00~16 : 00	オンライン	38
2024年	3月6日	18 : 00~21 : 00	オンライン	38
2024年	3月13日	13 : 00~16 : 00	オンライン	27
2024年	3月13日	18 : 00~21 : 00	オンライン	37
2024年	3月17日	13 : 30~16 : 30	コトノ八梅小路多目的スタジオ (京都府京都市)	10
2024年	3月20日	13 : 30~16 : 30	AP浜松町 (東京都港区)	28
2024年	3月30日	9 : 00~12 : 00	オンライン	41
2024年	3月30日	14 : 00~17 : 00	オンライン	29
2024年	3月31日	9 : 00~12 : 00	オンライン	34
2024年	3月31日	14 : 00~17 : 00	オンライン	12
			合計	410

2, 指導員養成の開催・実施

※事業目標 2 に関連

《指導員更新講習会の様子》



3, ライフセービングサポーター講習会の開催・実施

※事業目標2に関連

- (1) 時期：2023年4月～2024年3月
- (2) 場所：教育機関施設（体育館・プール）、民間プール、海浜等
- (3) 参加者：14,399名（小中高高校生、教職員、社会人）
- (4) 内容：
 - a. 心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置法（CPR、AED）
77か所、4,039名
 - b. ウォーターセーフティ
110か所 10,360名

●成功したこととその要因

全国の指導員や都道府県協会が教育機関や施設に対し、長年実施してきたプログラムの信頼性が目標の参加者数に繋がっていると感じた。また、資機材も充実してきたことが目標達成に大きく影響している。

●失敗したこととその要因

昨年度（16,178名）と比較すると参加者が減少した。オンラインによる開催数が減少したことが一つの要因として考えられる。

3, ライフセービングサポーター講習会の開催・実施

※事業目標2に関連

参加者への配布物



A4クリアファイル

講習会パンフレット

ジュニアライフセービング
テキストブック

教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

活動報告の概要

参加者総数 1616名

実施日数 28回

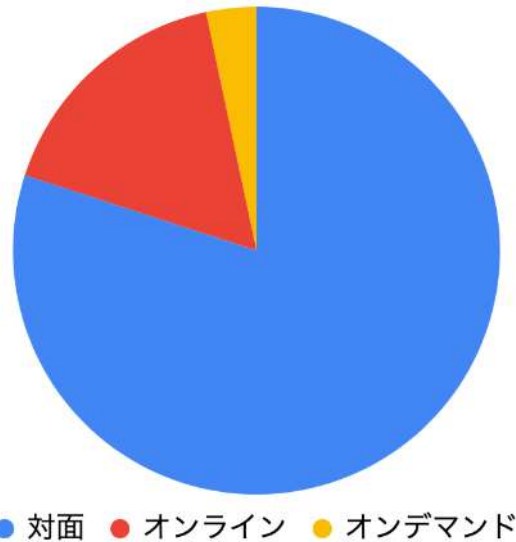
6月(9回)、7月(15回)、8月(3回) 10月(1回)

実施した都道府県 10都県

和歌山県、福岡県、東京都、島根県、長崎県、静岡県、神奈川県、滋賀県、京都府、沖縄県

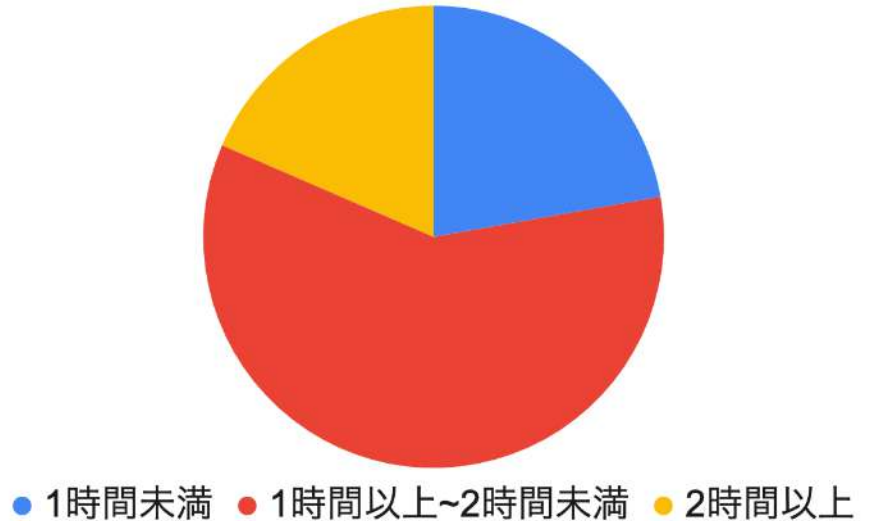
教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

実施形態



- 対面24件、オンライン5件、オンデマンド1件
※重複あり

実施時間



- 1時間未満6件、1~2時間17件、2時間以上5件

教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

依頼団体一覧

北九州市社会福祉研修所、牧之原市役所情報交流課、本川根中学校
地域総合型スポーツクラブレインボー、宮津市立吉津小学校
横浜市立上菅田中学校、宮津市立府中小学校、宮津市立日置小学校
山中小学校PTA、西大村小学校、能勢ささゆり学園、高槻市立三箇牧小学校、
伊根小学校、渡嘉敷村立阿波連小学校、渡嘉敷小中学校幼稚園PTA、諫早中学校
Love&safetyいさはや、クジラボ（外部委託）、品川区立大井第一小学校
滋賀県甲賀市立信楽小学校、島根県トライアスロン協会、宮津小学校PTA
防災サークルままもりっこ、イオンモール和歌山、株式会社ポピンズ

教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

実施名称（一部）

- 乳幼児の水遊び・プール活動の安全管理について
- PTA主催 水辺の安全講習
- ライフセーバーが教える水辺の安全
- 阿波連小学校正課授業(体育)
- 渡嘉敷小中学校幼稚園PTA水辺の安全教室
- 夏休み前に確認しておきたい 水辺の安全教育
- ライフセーバーによる親子向け 水辺の安全講習
- 創立150周年記念事業 命の教育
- 親子共学「トライアスロンチャレンジ島根」のプログラム

教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

実施内容

実施内容	件数
Water Safety (座学)	20
Water Safety (実技)	14
応急手当 (BLS + AED) 座学	1
応急手当 (BLS + AED) 実技	6
そのほか	1

対象

対象	件数
教員研修	13
幼児・児童・生徒・学生	12
PTA・保護者への研修	6
そのほか	3

- そのほかに関しては、防災サークル、スポーツクラブ、その場での集客があった。

教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

使用教材

教材・教具	使用件数
e-Lifesaving	18
ライフジャケット	14
ジュニアテキストブック	4
訓練用ダミー人形（成人）	8
訓練用ダミー人形（小児）	2
訓練用ダミー人形（乳児）	1
訓練用AED	4
サポーターBOOK	2
個人の作成資料	5
省庁から提供されている資料	2

今後について

○実施した都道府県
 10→20へ（2倍） などの明確な目標設定が必要
 →アンケートの回答を必須
 →講習会等の積極的な実施

Q各委員は、どのように依頼を受けているのか？

○対面24件、オンライン5件の割合
 Qどちらを強化していくのか。

委員によっての得意、不得意などはあるかもしれない。オンラインも強化するのであれば、ベース資料の共有など負担軽減の取り組みがあっても良いのではないか。

教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

次年度以降への引き継ぎで謝金等に関するコメント

活動日	依頼団体	担当	次回以降への引き継ぎ
7/13	能勢 ささゆり学園	中村佐知子	来年度以降も続けたいと学校側からお話をもらいました。来年度は予算化してくれるそうです。
7/18	渡嘉敷村立 阿波連小学校	木島悠太郎	次年度以降は確実に予算化をお願いしたい。
7/2	クジラボ (外部委託)	松本貴行	クジラボへの外部委託にて、e-Lifesavingを活用した授業実践を含めながら講義した。ダイレクトメールによる周知は1000ヵ所。88万円の委託費。
8/5	島根県トライアスロン 協会	高橋悠	費用の負担割合など相談をしていきたい。(指導員へは謝金、半日2千円程度が限度になるかも。)
10/29	島根県トライアスロン 協会、 雲南市加茂B&G海洋セ ンター	高橋悠	来年度以降、同様の形態でサポーター講習会を実施する場合は、受益団体に2~3割(金額にして2~3千円)負担して頂き、JLAに振込して頂くよう依頼済み。その際には、請求書を発行してほしい。

長期的な依頼を引き受ける際には、謝金がパターン化されると
次年度予算に組み込んでもらいやすいか。

教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

講習風景①



教育本部直轄ライフセービングサポーター講習報告

講習風景②



4, ICT教育プログラムの改修・拡充と活用・周知

※事業目標 3, 4 に関連

4-1, 2023年度に制作したもの



事前学習「監視の基本編」

今までの事前学習は子ども向けの教材だったが、今回の「監視の基本編」では、子どもが楽しく安全にプール活動や水遊びに取り組むための大人（教師・指導者）向けコンテンツとなっている。

溺れ事故を防ぐための監視のポイントや方法、万が一の対応など、具体的な例を挙げながら映像で詳しく解説している。



4-1①

監視の基本編 ~監視の方法~ (一部紹介)

New!

【監視】とは「見る」ではなく積極的に「観る」こと。



監視役にフォーカス

監視役がないプール活動は危険を伴う。 >>>



監視中、監視役がしてはいけない「悪い例」を挙げて注意喚起。 >>>



指導役にフォーカス

活動前、活動中、活動後に指導役が行うべき役割をピックアップ!



4-1② 監視の基本編 ～監視の方法～（一部紹介）

New!

【監視の仕方】を具体的に解説



子どもの様々なリスク行動を動画や写真で紹介。

【監視を行う上での留意点】



様々な視点から、それぞれの監視の仕方を解説。



質の高い監視を行うには、ローテーションと監視役、指導役とのコミュニケーションが重要。



4-1③

監視の方法 ~緊急時の対応編~

(一部紹介)

New!

【実際の救助の仕方】を解説

水に入らないで助ける方法の確認。



引き上げ方法の確認。



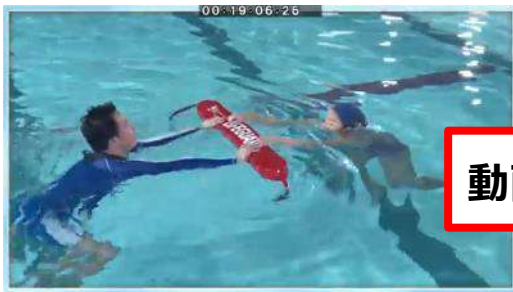
水に入らないで救助する方法
声をかける (トーク)



水に入らないで救助する方法
物を差し出す (リーチ)



水に入らないで救助する方法
物を投げ入れる (スロー)



動画で学ぼう！「助ける方法」で改めて確認を！



水に入って助ける場合のリスクと安全に助けるための方法を解説。

万が一の際は救助と並行して、119番通報とAEDの準備を！



ビート板などの浮き具につかまらせる



コースロープにつかまらせる



119番通報

AEDの準備

【緊急時の対応】について解説

緊急時、命を救うために行う行動を動画で確認。万が一への備えとして、緊急時対応計画の例や実際のシミュレーショントレーニングでの役割などを具体的に提示。

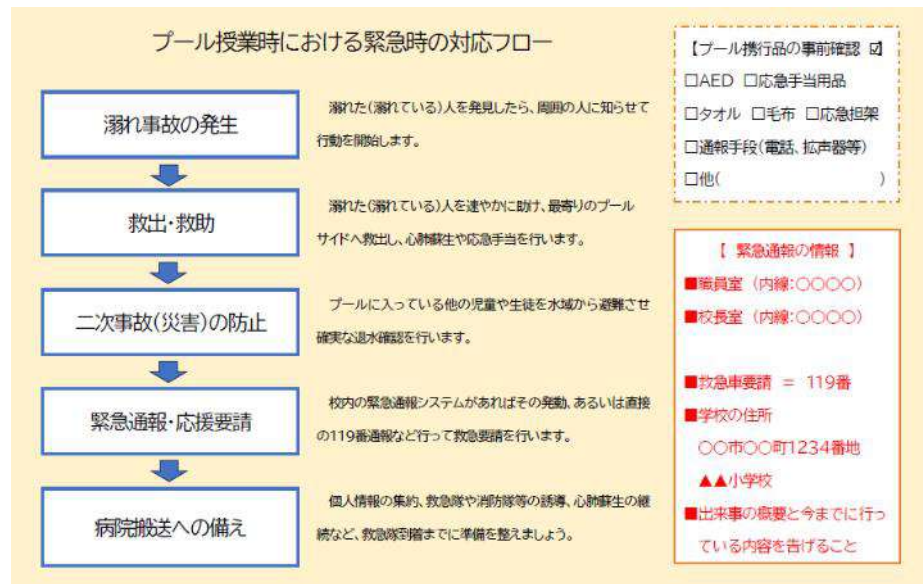
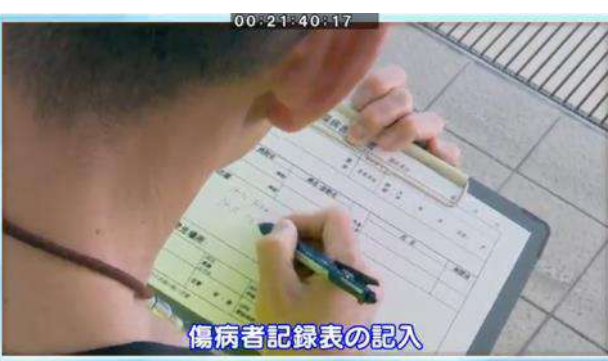


00:24:48:08

119番通報時に伝達すべき情報

- ・救急であること
- ・どこ … 事故の起こった場所
- ・誰が … 名前がわからなければ、性別とおよその年齢
- ・いつ … 事故が起こった時刻
- ・どうしたか … 溺れたのか、怪我をしたのか、急病なのか
- ・傷病者の様子（意識レベル、呼吸など）

救助者①：緊急通報の実施と協力者の要請



4-1⑤ みんなで考えよう！「湖でのできごと」



◆企画・制作 公益財団法人日本ライフセービング協会

◆制作協力 シグレコグチ
会津若松フィルムコミッション事務局
小石ヶ浜キャンプ場

◆ドローン映像 株式会社ドリームズカンパニー

◆出演：大原啓太 役…白倉 基陽 水上俊介 役…岩下 零時
安西葉月 役…酒井響和子 児玉遥香 役…林美玖
仲田拓真 役…宮下 紘樹



◆制作背景と目的

7月～8月に海水浴場において水難事故が多い年代が今回の主役である。また、昨今、事故が増加しているスタンドアップパドルでの例を取り上げることで、安全に水辺のアクティビティにかかわってほしいという願いを込めて制作した。子どもだけでなく、大人も自分自身の命を守れるよう、知識と技能をしっかりと身につけ、水辺での活動を積極的に楽しんでほしい。

4-1⑥, 2023年度に制作したもの

「湖でのできごと」ストーリー

みんなで考えよう!



海でのできごと

離岸流ってなに?

川でのできごと

湖でのできごと



撮影場所 猪苗代湖



①夏休みのある日、啓太たち高校時代の仲間5人で湖に遊びに行きました。みんなでバーベキューを楽しんだあと、ウォーターセーフティ資格をもっている俊介の指導の元、葉月はスタンドアップパドルに挑戦することに。



③一人で練習中の葉月。写真を撮ろうとしたところ、スマートフォンを湖の底に落としてしまいました。そこで、自分で拾おうと、ライフジャケットのまま水に潜ったそのとき…。



⑤拓真は啓太に代わってくれと頼みこみ、遥香とともにカヤックで湖へ。日焼けが痛くて、ライフジャケットを着ていない拓真。さらに、お酒を飲んで上機嫌だったため、カヤックの上で立ち上がり…。



②俊介は先に湖に入り、活動場所の確認。葉月にライフジャケットの着方を教え、いよいよ湖の中へ。漕ぎ方を練習して、葉月もバッチリ!安全に遊べることを確認し、俊介は啓太と遥香にカヤックを教えに行くことに。



④俊介が異変に気づき、葉月の元へ。スマートフォンも取ることができ、ひと段落。カヤックで啓太と遥香も合流し、みんなで湖上を散歩することに。そのとき、昼寝をしていた拓真が目覚め…。



⑥湖に投げ出されてしまった二人。ライフジャケットを着ていなかった拓真を俊介が助け、事なきを得たのでした。正しい知識と万が一への備えが大切だと改めて学んだ啓太達でした。

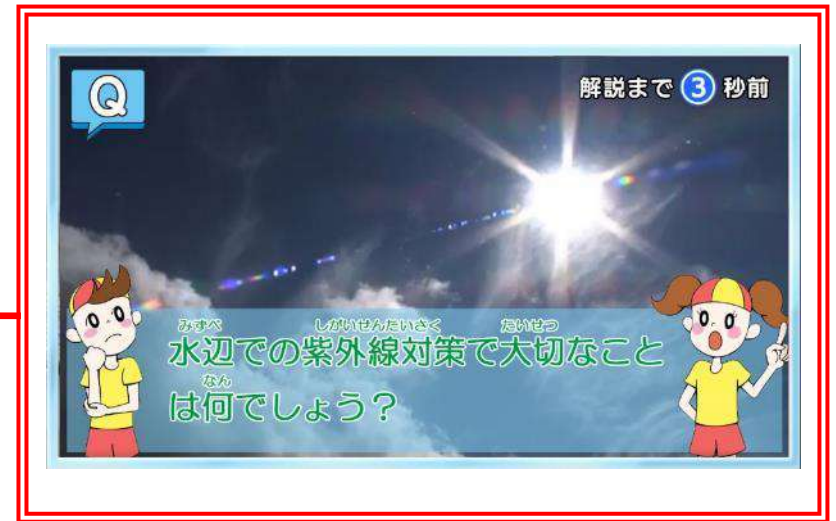
4-1⑦, 2023年度に制作したもの

New! **学習のポイント**
動画を見たあとで、復習しよう。

ウォーターセーフティとは、どんな資格でしょう？	湖で活動を始める前に、確認しておいた方が良いことは何でしょう？	ライフジャケットの正しい着方を学びましょう。	水辺での紫外線対策で大切なことは何でしょう？
スタンドアップパドル(SUP)をする上での事故防止対策とは何でしょう？	この状況で危険なことは何だと思いますか？	必要に応じて、水中でライフジャケットを脱ぐことも考えられます。「水中でのライフジャケットの着方」を確認しておきましょう。	このような場合にそなえて、一人でも乗れるようにあらかじめ練習しておきましょう。
飲酒は気持ちが高揚し、判断力や行動力がぶぐなり、おぼれにつながります。水の活動の際は絶対にやめましょう。	もし、落水してしまっても、ボードやカヤックからはなれることなく浮力を確保しましょう。		

①動画で考えよう！「湖のできごと」の中で出題される質問が「学習のポイント」のページに収納されており、振り返り学習や、要点整理として活用することができる。

②動画で考えよう！「湖のできごと」指導者は一時停止しながら、児童生徒の主体的、対話的な学びを促せるような設定になっている。動画のそれぞれの場面において、全部で10の質問が自動的に出題される仕組みになっている。



A

1. 日焼け止めをムラなく塗り、こまめに塗り直しましょう。
2. つばのついた帽子や長袖を着用し、陸にいるときは日陰に入りましょう。
3. 水の中に入るときもラッシュガードなどを着用して皮膚を覆いましょう。
4. UVカットのサングラスをかけて紫外線から目を守りましょう。



4-1⑧, 2023年度に制作したもの



クイズ! 水辺の安全って?

アクセス数の多いクイズの
大幅なリニューアルを実施

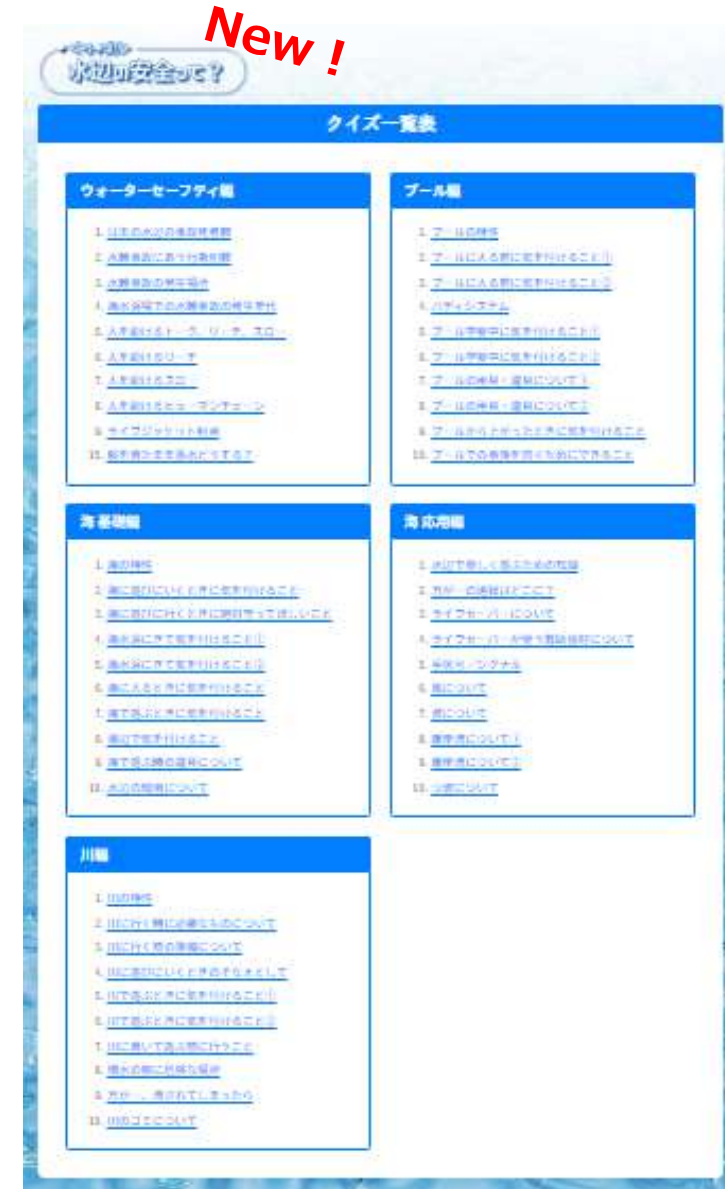
現在のクイズは、初級編、中級編、上級編、各10問で構成されていた。また、難易度分けをしていたため、海、プール、ウォーターセーフティなどの項目が混在して出題されていた。

コンテンツの増加や海、プール、川など水辺が多岐に渡ってきたことから、項目をまとめ、

- 「ウォーターセーフティ編」
- 「プール編」
- 「海編」
- 「川編」

とした。「海編」は基礎編、応用編に分け、計50問の問題に再編した。

また、指導している側がクイズを一問ずつ選べるよう、**一覧表を作成**。出題項目から、問題を選択できるようにし、より指導場面で扱いやすくした。



4-1⑨, 2023年度に制作したもの (一部紹介)

New!



クイズのトップページもリニューアル。それぞれの場所のイラストを追加。また、今までの問題の選択肢にもイラストを入れたり、解説にもイラストや写真を入れたりなど、内容が理解しやすいよう工夫した。



4-1⑩, 2023年度に制作したもの (一部紹介)

海 心用編

川編

New!

クイズ選択編

※大人が児童生徒に対し、クイズを通して学びを深めたいときに質問で選択できるようになってます。

e-Lifesavingトップページから【クイズ選択編】することで、指導者が用途に応じて問題を選ぶことができるよう教材として扱いやすい形にした。

クイズ一覧表

ウォーターセーフティ編	プール編	川編
<ol style="list-style-type: none"> 日本の水辺の事故死者数 水難事故にあう行為別数 水難事故の発生場所 海水浴場での水難事故の発生年代 人を助けるトーク、リーチ、スロー 人を助けるリーチ 人を助けるスロー 人を助けるヒューマンチェーン ライフジャケット利点 服を着たまま落水どうする? 	<ol style="list-style-type: none"> プールの特性 プールに入る前に気を付けること① プールに入る前に気を付けること② パディシステム プール学習中に気を付けること① プール学習中に気を付けること② プールの用具・道具について① プールの用具・道具について② プールから上がったときに気を付けること プールでの事後を防ぐためにできること 	<ol style="list-style-type: none"> 川の特徴 川に行く時に必要なものについて 川に行く前の準備について 川に遊びに行くときのそなえとして 川で遊ぶときに気を付けること① 川で遊ぶときに気を付けること② 川に着いて遊ぶ前に行うこと 増水の際に危険な場所 万が一、流されてしまったら 川のゴミについて
海基礎編	海応用編	
<ol style="list-style-type: none"> 海の特徴 海に遊びに行くときに気を付けること 海に遊びに行くときに絶対守ってほしいこと 海水浴にきて気を付けること① 海水浴にきて気を付けること② 海に入るときに気を付けること 海で遊ぶときに気を付けること 海辺で気を付けること 海で遊ぶ時の道具について 水辺の環境について 	<ol style="list-style-type: none"> 水辺で楽しく遊ぶための知識 万が一の通報はどこに? ライフセーバーについて ライフセーバーが使う救助器材について 手信号/シグナル 風について 波について 離岸流について① 離岸流について② つ波について 	

タイトルをクリックすると、問題のページに飛ぶようにした。戻る際は、【一覧表に戻る】のアイコンで戻ることができ、授業展開に合わせ、導入や復習で扱いやすくした。

4-1⑪ , 2023年度に制作したもの



事前学習 みんなで考えよう! 動画で学ぼう! クイズ! 水辺の安全って? 資料集 応援メッセージ お問い合わせ

動画で学ぼう!

安全なプール活動 助かる方法 助ける方法 実験動画

<p>水に入らないで救助する方法 声をかける (トーン)</p>	<p>水に入らないで救助する方法 物を差し出す (リーチ)</p>	<p>水に入らないで救助する方法 物を投げ入れる (スロー)</p>
<p>水に入らないで救助する方法 ロープを投げ入れる</p>	<p>安全な水からの上げ方① 補助を必要とする場合 (スターアップ・リフト)</p>	<p>安全な水からの上げ方② 補助を必要とする場合 (アンダーアーム・リフト)</p>
<p>安全な水からの上げ方③ 意識がなく水没している子どもを引き上げる方法</p>	<p>安全な水からの上げ方④ 意識がなく水没している体の大きな子どもを引き上げる方法</p>	

New!

◆ 助ける方法 追加

「意識がなく水没している子どもを引き上げる方法」

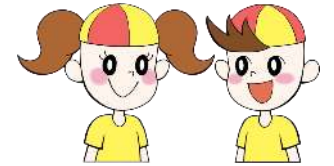


◆ 助ける方法 追加

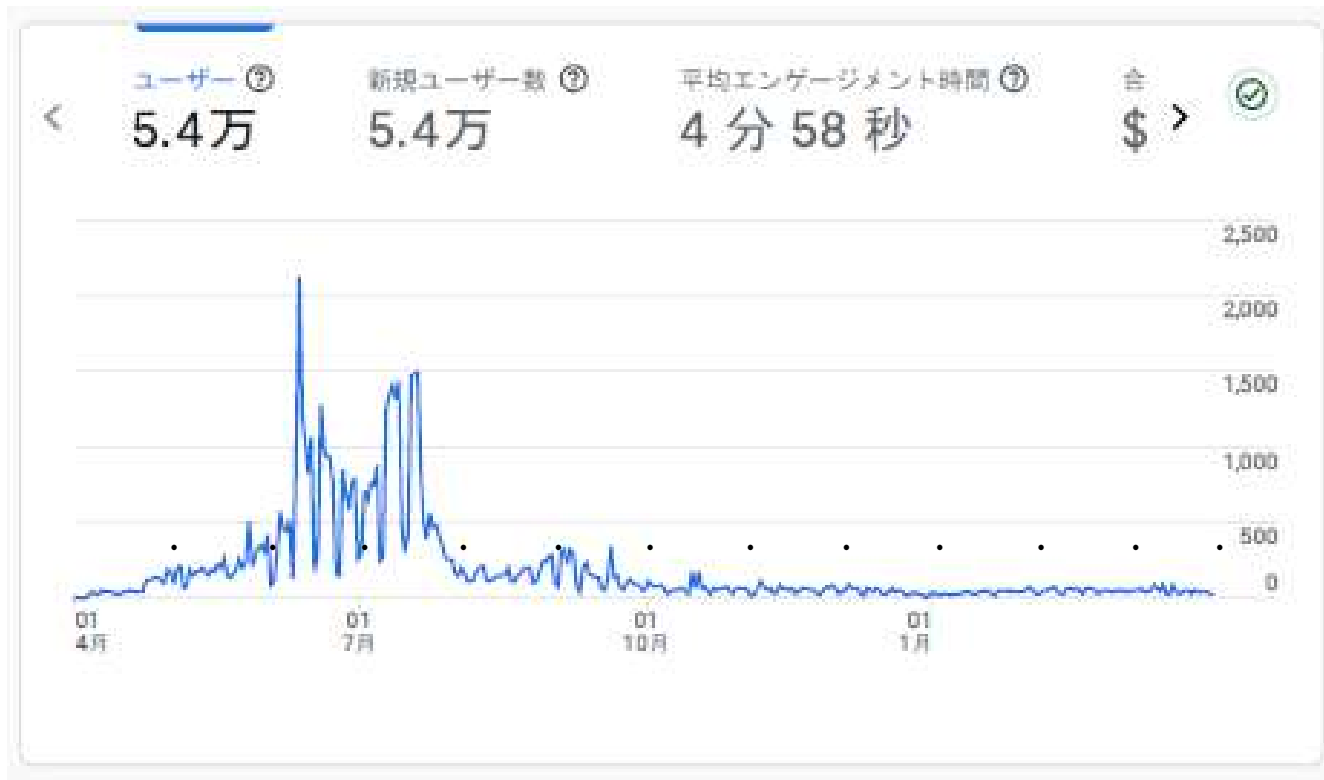
「意識がなく水没している体の大きな子どもを引き上げる方法」



4-2 ①, 2023年度におけるe-Lifesaving アクセス解析



期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日



◆教育本部考察

ユーザーの利用時期は例年と同じような形で推移していることが分かる。6月あたりから増加し、学校の終業直前の7月下旬あたりまで、というアクセスの集中が特徴である。

コロナ収束により、学校での水泳学習が復活し、限りある授業時間の中で、最大限に実技を優先させたいとする実情から、コロナピーク時（79,773User～2021年度～）に比べ、ユーザー数の減少は否めない。よって今後は、児童・生徒の学びはもちろん、教員や指導者にとっても、安全に水泳学習が実施できるような支援が求められると考える。

近年、ICT教育の手軽さ（教師側）から、クイズ形式（Q & A）による学びの在り方が課題視されている。児童生徒の記憶や行動変容にまでは結びつきにくいからである。

今後も学びのリアリティ（自分事として捉えられる観点）と、水辺への興味関心、安全の自律に繋がられるようなコンテンツ制作に力点を置きたい。さらには年齢に応じたコンテンツ（学び）の分類を図ることと同時に、安全教育の必要性を教師の実感に落とし込めるような戦略的周知（広報、研修等）を試みたい。

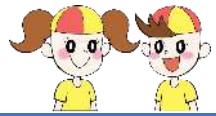
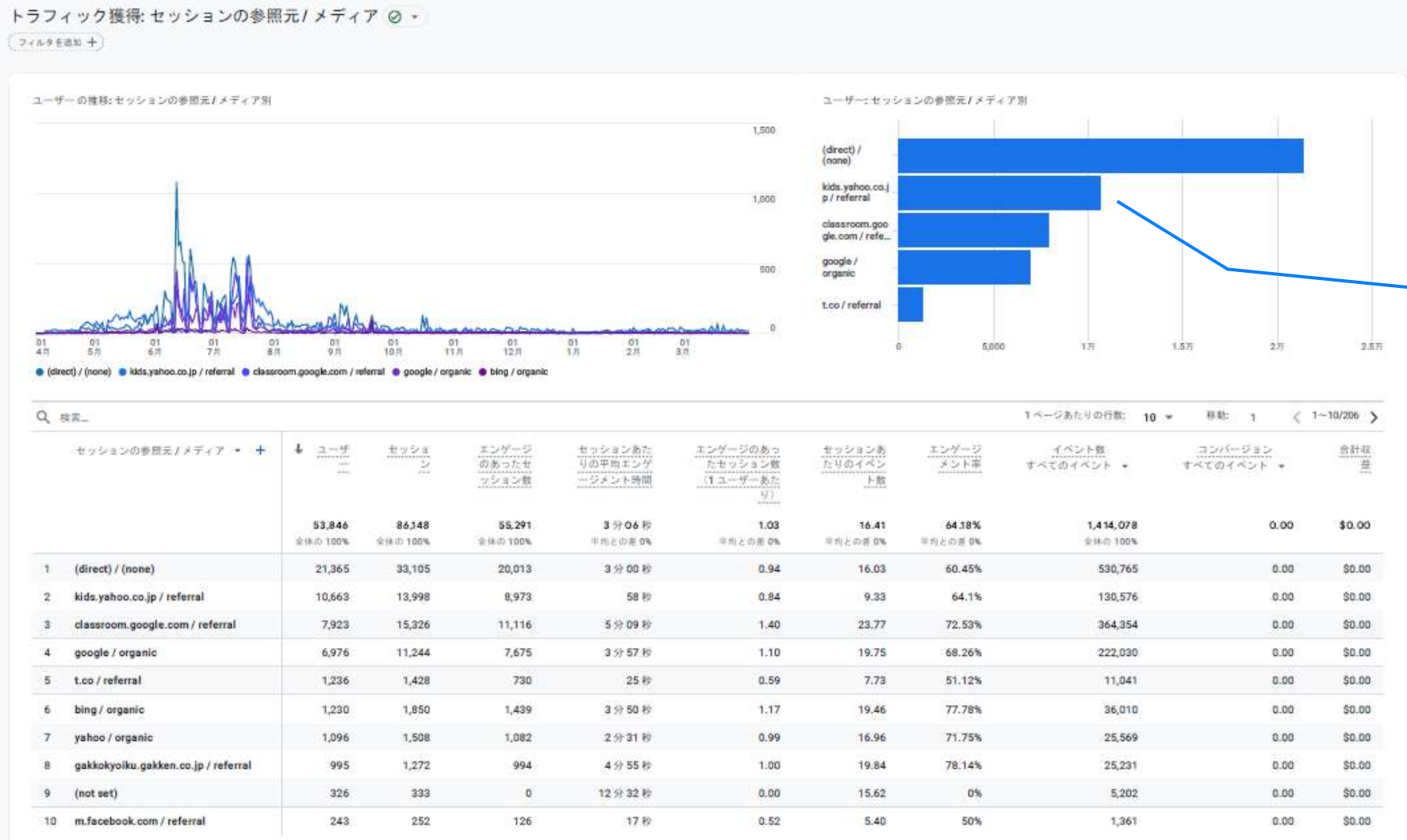
※グーグルのアナリティクスは、従来の解析方法の仕様が変った（UA→GA4）

4-2②, 2023年度におけるe-Lifesaving アクセス解析



◆教育本部考察
 スマホよりもPCでの閲覧が多いことや、授業に活用できる資料のダウンロード数が6191件になっていることから、主に学校での利用が推測できる。このサイトを利用する際、学校名の入力を依頼するような煩わしい仕組みにはしていないので、その先の児童・生徒へ活用された人数までを想定し、今後もコンテンツの充実と、活用周知、啓発に力点をおきたい。

4-2③, 2023年度におけるe-Lifesaving アクセス解析



◆教育本部考察
「Yahoo!きっず」からの訪問が多いが平均エンゲージメント時間は短い。Googleクラスルームの平均エンゲージメントは5分と滞在が長い。

→コンテンツ周知の上では、様々な入り口は重要であるが、学びの本質にたどり着いていないことが課題である。学校教育におけるICT教育全体の課題ともいえる。教員研修等の場を活用し、伝えていきたい。

4-2④, 2023年度におけるe-Lifesaving アクセス解析



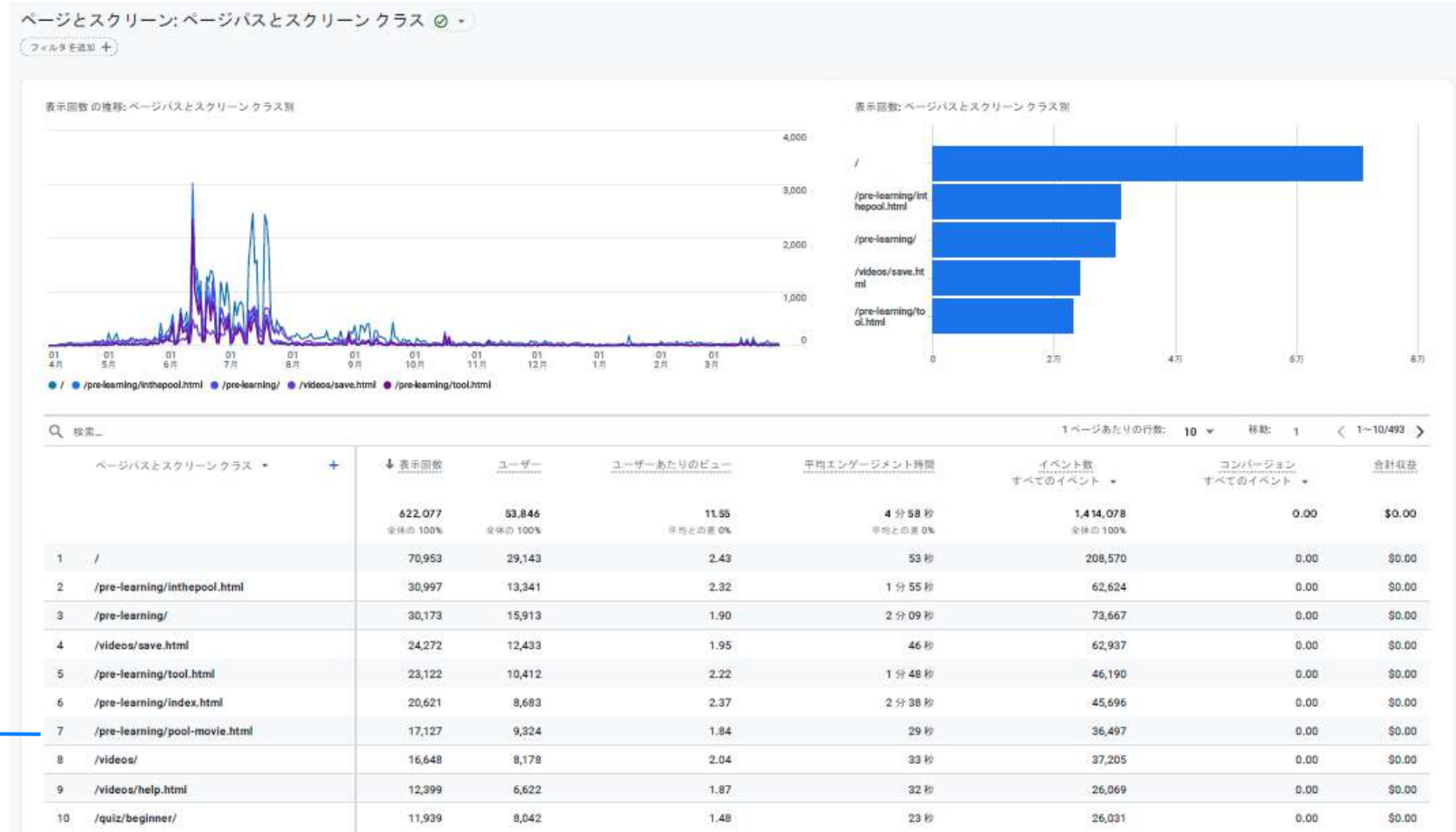
水泳運動の心得を守って安全に活動することが大切（学習指導要領）

水泳学習において、

「たのしいばしょ」と

その心得を覚えやすいようにまとめた

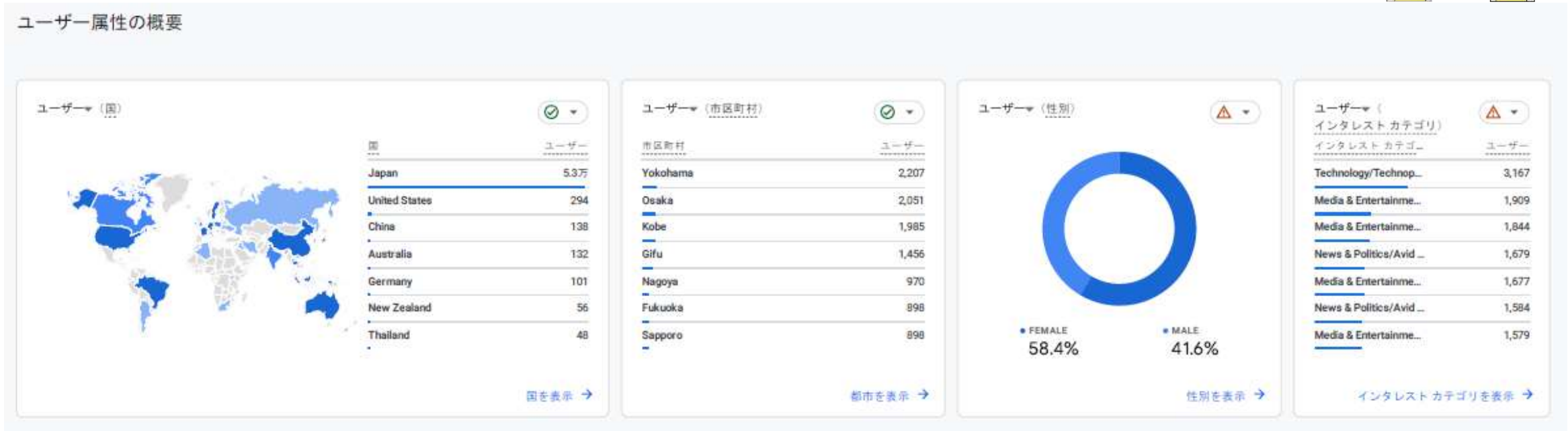
(JLA発案)



◆教育本部考察

学校の水泳学習が完全復活の傾向にあった昨年、教師がその活動の安全性を児童・生徒に対して伝えやすくすることをねらいとした、新設ムービーが着実にランクインした。特に「水泳運動の心得」は、プールの有無に関わらず、必ず教えなければいけない事項（学習指導要領）であるため、今後の活用がさらに求められるだろう。一方、主体的、対話的学びへの展開をねらいとした「みんなで考えよう！シリーズ」へのアクセス数が伸びていないのは、教育現場での時間的制約が考えられる。プール実技を優先することは望ましい一方で、自然領域における安全知識のそなえをしっかりと学ぶ時間の確保が課題である。体育・保健体育科教育に関わらず、総合学習や道徳等での取り扱いも推奨していきたい。

4-2⑤, 2023年度におけるe-Lifesaving アクセス解析



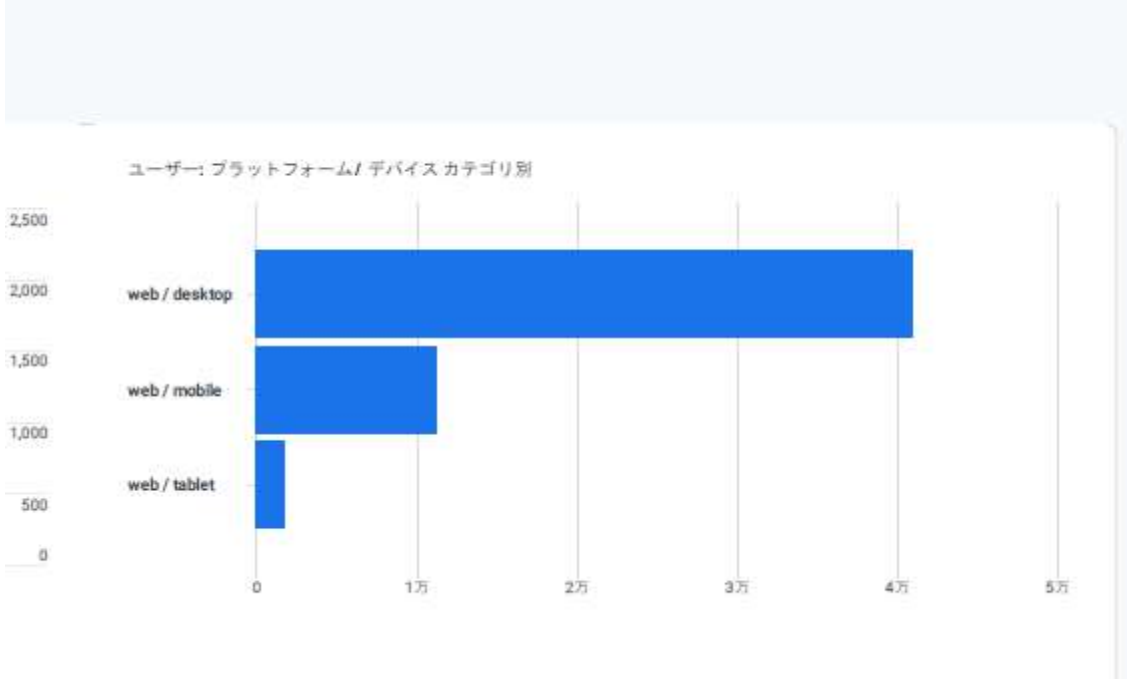
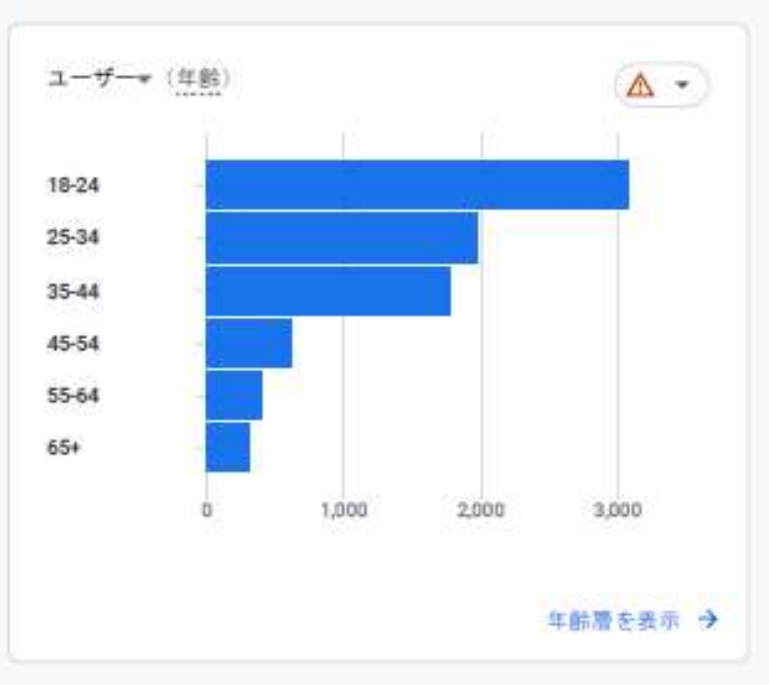
◆教育本部考察

今年度は世界溺水防止会議において、e-Lifesavingの開発と授業実践に関する発表をおこなった。国別ユーザーの上位にある全ての国が、その会場にいたことからわかるように、参加者はとても興味を示してくださいました。また国内でもインターナショナルスクールにおける授業実践に活用された事例や、世界的にアジア地区に溺水が多い観点からも、次年度では英語表記、翻訳ページの制作を試みたい。こうした取り組みが日本の「英語」授業との横断的学びに活用されることが期待される。



世界溺水防止会議@オーストラリア

4-2⑥, 2023年度におけるe-Lifesaving アクセス解析



◆教育本部考察
 ユーザ（年齢）層や、デスクトップPCからのアクセスが大半である。
 →教師、指導者の利用 = 教育現場での活用
 全体ユーザー数である41,002人×●●人の児童生徒に届いていると仮定
 →1クラス30名と換算すると、約123万人の児童生徒に対しての学びの提供が予測される。

プラットフォーム/ デバイス カテゴリ	ユーザー数	新規ユーザー数	エンゲージのあったセッション数	エンゲージメント率	エンゲージのあったセッション数 (1ユーザーあたり)	平均エンゲージメント時間	イベント数 (すべてのイベント)	コンバージョン (すべてのイベント)	合計収益
全体	53,846	53,990	55,291	64.18%	1.03	4分58秒	1,414,078	0.00	\$0.00
1 web / desktop	41,002	41,177	45,492	67.05%	1.11	6分03秒	1,241,115	0.00	\$0.00
2 web / mobile	11,193	11,237	7,667	49.75%	0.68	1分12秒	133,351	0.00	\$0.00
3 web / tablet	1,778	1,576	1,439	53.83%	0.81	3分30秒	39,612	0.00	\$0.00

4-2⑦, その他 e-Lifesavingに関する資料 (オンラインイベント開催: クジラボ企画)

無料
オンラインイベント
子どもたちの命を守る
水辺の安全教育

水泳運動の心得に

今すぐ授業に導入できる

夏休み前に確認しておきたい 水辺の安全教育

新学習指導要領で小学校高学年の水泳領域に新設された
「安全確保につながる運動」について命を守る行動を実践的に学びます。

ICTを活用した授業に

職員研修に

日時 2023年 **7/2**日
10:00 ~ 11:00 **オンライン開催**

内容

- 夏休み前にこまめには確認したい! 水辺事故防止に関する心得
- 保健体育で学んでから、今すぐ使える水辺の安全教育の授業体験
- 授業で使える動画 & ワークシート付き
- 学校で活用できる教材がいっぱい! e-Lifesaving の紹介
- 水泳学習の安全指導に、保護学習の校外活動にも
- 質疑応答

こんな先生・学校にオススメ

- コロナ明けで久しぶりの水泳学習、安全指導に不安がある……
- 「水辺の事故防止に関する心得」と書かれても意味がわからず何をしたらいいかわからない
- 夏休み前の安全指導、子どもたちにもっと興味を持ってもらいたい

講師 **松本貴行**

学校法人広域学園中学校附属学校 保健体育科 教諭
公益財団法人日本ライフセービング協会
副理事長 / 教育本部長
1975年 誕生
日本体育大学 体育学部附属学校 卒業
慶応義塾大学大学院 教育学研究科修士課程 修了
内閣府消費者庁消費安全課長 専門委員

お申し込みは QRコードから

主催: 公益財団法人日本ライフセービング協会 株式会社クジラボ
企画・運営: 株式会社クジラボ
イベントに関するお問い合わせ
株式会社クジラボ kikaku@kujilabo.jp

e-Lifesaving (イー・ライフセービング) とは?

「e-Lifesaving (イー・ライフセービング)」とは、**水辺において自分の命を守るために必要な知識・技能の習得を目的とした安全教育プログラム**です。どこでも楽しく学べるようにと、日本ライフセービング協会によって制作された学習教材です。小学校・中学校の新学習指導要領に沿った「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深めるような構成となっています。主に学校教育において**電子黒板**や**PC・タブレット端末**等を使用し、**主体的・対話的な学び**を促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広く活用できます。

ICTを活用した主体的・対話的な学びを実現

指導案集

動画

クイズ

e-Lifesaving HP

30th 日本ライフセービング協会 水辺の安全教育への想い

海やプールは、子供たちにとって最高の遊び場です。誰もが笑顔になれるこの水辺は、我々の生活の中でも身近にあるものです。しかしながらこの水辺では、残念ながら命を落としてしまうほどの事故につながることもあります。こういった事故を未然に防ぐためには必要なことは、水辺の危険について知っておくことが重要であり、この知識を持った上で水辺でのさまざまな体験を踏まえて生きる力を身につけることが最も効果的になります。我々日本ライフセービング協会は、理念を共にする様々な団体様と共に、水辺の安全に関する教育を正しく広めると共に、水辺の事故ゼロをめざした活動を続けてまいります。

e-Lifesaving 応援メッセージ

室伏 広治
Murofushi Koji
スポーツ庁長官

水泳は命を守ることができるスポーツです。日本では多くの学校にプールが整備され、水泳の授業は必ず受けることになっています。学校での水泳の授業を通して、全ての国民に泳ぎをマスターしてほしいと思っています。その上で、プールでの水泳だけでなく、海や川などの自然とのふれあひの中で、安全に楽しく泳いだり、遊んだりすることができるよう、水辺での事故を防止するための知識や技能を身に付けることが大変重要です。この教材を用いて、緊急時に行うべき行動などを学ぶことで水辺の安全確保が図られ、一人でも多くの子供たちの命を守ることに繋がることが願っています。

HP

公益財団法人
日本ライフセービング協会
〒105-0013
東京都港区浜松町 2-1-18
トップビル1階

《研究会情報掲載》

みんなの教育技術

<https://koyoiku.sho.jp/seminar-calendar/date/20230702/>

光村図書

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/kenkyu/3599>

明治図書

<https://meijitosh.co.jp/eduzine/study/?id=20230312>

東京書籍

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/kenkyukai/detail/11361/>

学びの場.com

<https://www.manabinoba.com/events/022003.html>

本日のイベントの満足度を教えてください

11件の回答

満足度	割合
1	0 (0%)
2	0 (0%)
3	0 (0%)
4	1 (9.1%)
5	10 (90.9%)

本日のイベントの内容のうち、興味があったものにチェックをつけてください (複数可能)

11件の回答

興味があった内容	回答数	割合
水辺事故防止に関する心得	9	81.8%
授業で使える動画&ワークシート	7	63.6%
e-Lifesavingの紹介~水泳学習の安全指導に、体験学習の...	10	90.9%

※イベント申込者: 48名

64

4-2⑧, その他 e-Lifesavingに関連する資料 (学会での発表)

404

Development and Implementation of Effective ICT Teaching Materials for Water Safety Education

Takayuki Matsumoto^{1,2}, Yuta Adachi², Makiko Oda², Youjiro Sato²
¹Seijogakuen, Tokyo, Japan. ²Japan Lifesaving Association, Tokyo, Japan



TAKAYUKI MATSUMOTO

Abstract submission

Background: There are 1,395 drowning accidents in Japan each year, of which 119 are children under junior high school age (1). The drowning accidents mainly occur in the sea and rivers in the summer season of July and August. In order to prevent drowning accidents, it is effective for children to know the rules for water safety, to predict dangers, and to prepare for emergency actions. On the other hand, the national curriculum standards for elementary and junior high schools state, "Be sure to teach the knowledge and skills for water safety" (2). However, almost all teachers do not have the knowledge and skills related to drowning prevention, the issue is who and how to teach it. Therefore, we developed "e-Lifesaving" which is ICT teaching material that enables proactive and interactive learning in 2019. In this study, we investigated the usage situation and usefulness of e-Lifesaving.

Methods: e-Lifesaving consists of four contents; pre-learning, thinking together, learning from videos, and a water safety quiz. New videos are added every year. e-Lifesaving has actually been operating since 2019. Also, in 2022, it was implemented as an educational program in line with the national curriculum standards at three model schools. In this research, the number of downloads of e-Lifesaving from the Web was investigated taking seasonal changes into account. In addition, we considered the usefulness of e-Lifesaving based on the results of implementation at three model schools.

Results: e-Lifesaving has been used by a total of over 100,000 people and 2 million page views up to February 2023, confirming that it is being used in many schools. It was thought that the use of ICT teaching materials increased children's water safety knowledge and confidence based on practical reports at three model schools.

Conclusion: In recent years, ICT education has been actively incorporated into school education, and its necessity and usefulness were confirmed in water safety education as well. In the future, e-lifesaving is expected to be used for disaster prevention education for Tsunami and floods that requires self-help and mutual assistance.

Presentation

Oral

※World Conference on Drowning Prevention 2023 において e-Lifesavingの紹介と日本の教育実践例を発表した

2023年9月30日(土)13時~17時 オンライン開催

日本子ども安全学会第10回大会

子ども安全フォーラム-未来へつなぐ-

子どもの安全と事故予防に関わる取り組みと実践

基調講演

- 子ども安全フォーラム-未来へつなぐ-
自見はなこ先生 ビデオメッセージ
- こどもの未来を守るために
香川県のチャイルド・デス・レビューとライフジャケット着用啓発活動から考える
木下あゆみ先生
- こどもの安全を守るために—実務家・研究者ができること
鈴木秀洋先生 日本大学
- コレクティブ・アプローチで挑み続ける傷害予防
西田佳史先生 東京工業大学工学院教授

日本子ども安全学会

研究・実践報告

- みんなで作る安全安心—教育の力を信じて—
金澤良先生
- スポーツ庁事業「学校における水難事故防止対策の強化」による実践研究から見てきたもの
松本貴行先生
- 演習授業での「聞き書きマップ」の活用(子どもの安全に向けた一実践例)
松原英世先生
- 子どもたちの学びと経験—安全を前提に—「何もなかった」ことを誇りにする
土橋一智先生

日本子ども安全学会

※日本子ども安全学会においてスポーツ庁事業で実施したe-Lifesavingを活用した水泳学習についての効果を発表した

4-2⑨, その他 e-Lifesavingに関する資料 (省庁による掲載、啓発)

きみの好き、応援サイト
たのしくまなび隊とは [▶](#)



- 体験したい
- 体を動かしたい
- 調べたい

体育

小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6

守ろう!いのち 学び合おう! みずべ水辺の安全

提供元 日本ライフセービング協会

プール、海、川、湖のそれぞれの場所で、安全に楽しく活動するための知識と、万が一の対処行動が動画で学べます。かくにんのためのワークシートやクイズもあります。



※文部科学省
 「たのしくまなび隊」
 に掲載 (新設)



※こども家庭庁
 こどもの事故防止に関する取組事例
 「啓発資料などによる周知」HP掲載

※今年度も引き続き、海上保安庁、消費者庁、スポーツ庁からの安全啓発の通知やHPに「e-Lifesaving」が掲載されている。



- 1) 誰もがライフセーバーである水辺の文化を創る。 2) 子ども達の海との接点や活動支援を通じて、自他の生命を大切に作る心身を育む。
 3) 水辺に関わるすべての人が支えあう「事故ゼロ」の社会を目指す。 → **達成分析と課題整理 全国 ライフセービング教育実態調査の実施 (2024)**

		2019	2020	2021	2022	2023	2024-
周知・広報	コンテンツ制作	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 「プールに入る前に」 実践動画集 「助かる&助ける」テク 動画で考えよう! 「海のできごと」 クイズ! 「水辺の安全って?」 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 「海編」「川編」 動画で学ぼう! 「実験映像」 みんなで考えよう! 「離岸流って?」 クイズ! 「上級編」 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 「教えて! ライフセーバー」「教えて! 川遊びリーダー」 みんなで考えよう! 「川のできごと」 「資料集」 ワークシート, 関連動画 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 「教えて! ライフガード」 みんなで考えよう! 「ライフセーバーのいない海で」 動画で学ぼう! 各種WS技能 「資料集」 ワークシート, 関連動画 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 「監視の基本編」 みんなで考えよう! 「湖のできごと」 クイズ整理 プール編、海編、川編に整理の上、湖編を追加 「学びのフレームワーク」 	<p>新規コンテンツ制作案</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学習 「湖編」 みんなで考えよう! 「おじいちゃん」と仮 資料集 「I'am LIFESAVER」仮 Lifesaverへの道 仮 English Page 外国人の溺水事故、横断的学び・インターナショナルスクールニーズ、ILSミッション 「e-Lifesaving」× アニメキャラクターコラボ クイズ自動採点機能
	連携・実績	 <p>スポーツ庁、西条市、鎌倉市、横浜市教育委員会へ周知</p>	 <p>文部科学省, スポーツ庁, 日本臨床救急学会, 日本子ども安全学会, 神奈川県包括協定, 河川財団</p>	 <p>文部科学省, 国土交通省, スポーツ庁, 消費者庁, 気象庁, 河川財団</p>	 <p>文部科学省, 国土交通省, 海上保安庁, スポーツ庁, 消費者庁, 気象庁, 河川財団</p>	 <p>文部科学省, 国土交通省, 海上保安庁, スポーツ庁, 消費者庁, 気象庁, こども家庭庁, 警察庁, 河川財団</p>	
講習会	サポーター	<ul style="list-style-type: none"> BLS (CPR+AED) 79カ所 5420人 Water Safety 89カ所 9141人 	<ul style="list-style-type: none"> BLS (CPR+AED) 19カ所 1353人 Water Safety 14カ所 576人 	<ul style="list-style-type: none"> BLS (CPR+AED) 42カ所 2585人 Water Safety 68カ所 6906人 	<ul style="list-style-type: none"> BLS (CPR+AED) 75カ所 5157人 Water Safety 94カ所 11021人 	<ul style="list-style-type: none"> BLS (CPR+AED) 77カ所 4039人 Water Safety 110カ所 10360人 	<ul style="list-style-type: none"> BLS (CPR+AED) 100カ所 4500人 Water Safety 120カ所 11500人
	器材支援	<ul style="list-style-type: none"> ニッパーボード: 16ヶ所=32本 Jrキャップ: 16ヶ所=320枚 Jrテキスト: 2950冊 Jrパンフレット: 1200冊 Academyパンフレット: 3000部 	<ul style="list-style-type: none"> ライフジャケット9ヶ所=90着 Jrラッシュガード9ヶ所=270着 Jrテキスト: 1280冊 掲出用ポップアップバナー: 9個 安全啓発クリアファイル: 300枚 	<ul style="list-style-type: none"> ライフジャケット5ヶ所=75着 Jrラッシュガード5ヶ所=150着 Jrキャップ5ヶ所=150枚 ニッパーボード5ヶ所=25本 Jrテキスト: 4500冊 掲出用ポップアップバナー5個 安全啓発クリアファイル: 8,478枚 	<ul style="list-style-type: none"> ライフジャケット10ヶ所=150着 Jrラッシュガード5ヶ所=150枚 ニッパーボード10ヶ所=35本 Q-CPRダミー5ヶ所=10体 Jrテキスト: 4500冊 ポップアップバナー5個 安全啓発クリアファイル: 16178枚 	<ul style="list-style-type: none"> Jrウェットスーツ50着 ライフジャケット10ヶ所=150着 Jrラッシュガード10ヶ所=150枚 ニッパーボード10ヶ所=30本 Jrテキスト: 4500冊 ポップアップバナー10個 安全啓発クリアファイル: 20,000枚 <p>夏に限定されない体験活動、学び場の創出 初の12月宿泊イベント企画</p>	<ul style="list-style-type: none"> Jrウェットスーツ5カ所=75着 ライフジャケット10ヶ所=150着 Jrラッシュガード10ヶ所=150枚 ニッパーボード10ヶ所=20本 ジュニアキャップ10カ所=150枚 Jrテキスト: 4000冊 ポップアップバナー10個 安全啓発クリアファイル: 20,000枚 <p>年間を通じた海との接点の創出。ライフセーバーと海遊びの定着化</p>